

新春企画●**総長・理事長対談** 酒井 健夫総長 田中 英壽理事長

特集●**故郷への想いを味に託して**

特別取材●奄美方言研究者 **岡村 隆博**

首長に聞く●福井県敦賀市長 **河瀬 一治**

トップの肖像●大泉開発(株)社長 **坂本 和彦**

こんな校友もいます●盛岡正食普及会 **村井 良和**

連載●袖すりあうも

静岡県／割烹大花 **兵庫県／ホテル山長**

先輩にインタビュー●(株)日本航空インターナショナル **後藤 あすか**

まだまだ修業中●(財)清春白樺美術館 **及川 真理**

おうえん●日本大学校友会・会報誌

No.14/2009.1

桜縁

N.
自主創造
日本大学

あなたとともに
100万人の仲間とともに



日本大学管弦楽団 第74回定期演奏会—創団40周年記念—(東京都・文京シビックホール)

CONTENTS

新春企画●

総長・理事長対談……………1

日本大学総長／酒井 健夫先生
日本大学理事長／田中 英壽先生

特集●

故郷への想いを味に託して……………5

(有) 一高本舗／殿村 高平さん
宝食品(株)／浅尾 正勝さん
(株) 丸う田代／田代 勇生さん
笹山商店／笹山 啓さん

特別取材

“こころ”は言葉が伝える……………10

消えゆく島の“こころ”の継承を文字に託す
奄美方言研究者／岡村 隆博さん

首長に聞く

……………14

福井県敦賀市長／河瀬 一治さん

トップの肖像

……………16

大泉開発(株)社長／坂本 和彦さん

こんな校友もいます

……………18

盛岡正食普及会／村井 良和さん

連載●袖すりあうも

……………20

お店紹介……………20
静岡県／割烹大花

……………21

お宿紹介……………21
兵庫県／ホテル山長

先輩にインタビュー

……………22

(株)日本航空インターナショナル／後藤 あすかさん

聞き手……………国際関係学部／古橋 由梨さん

まだまだ修業中

……………26

(財) 青春白樺美術館／及川 真理さん

……………28

……………30

……………30

……………31

……………33

「桜縁」の由来

日本大学(桜)と校友の皆さんとの縁を深めるだけでなく、校友の皆さん同士の縁も大切にしたいコミュニケーション誌を目指して、「桜縁(おうえん)」と名付けました。また、校友の皆さんに母校の教育・研究活動や後輩たちの学術・文化・スポーツ活動を「おうえん」(応援)してもらいたいという意味も込められています。

本学は総合大学とはいえ、キャンパスも離れているし、なかなか相互交流が取りにくかったのですが、最近は、総合学術情報センターの通信衛星を使った遠隔授業や、単位互換制度もでき、学部間交流が深まりつつあります。校友の皆さんも卒業してから学部間交流ができるように、この会報は、年齢層はできるだけ幅広く、学部・学科の枠を超えて一人でも多くの校友の皆さんを紹介していきたいと思っています。

IT(情報技術)が発達し、インターネットのホームページや電子メールでの情報伝達が増えています。この会報「桜縁」を持って、紹介する校友のお店などをふらりと訪ね、自分も日大の卒業生だと話しかけてみるのも良いのではないのでしょうか。きっと日本大学の話で盛り上がり、新しい縁が生まれるはず。この会報をどんどん活用して、桜の縁が広がっていくことを願っています。



日本大学管弦楽団 第74回定期演奏会
—創団40周年記念—
(東京都・文京シビックホール)

日本大学管弦楽団は、昭和43年6月30日に東京神田・共立講堂で初めての講演会を行い、昨年創団40周年目を迎えました。11月23日には、大勢の卒業生も参加し、「40周年を祝う会」を開きました。

現在は、団員総勢約120名。本部所属のサークルで、各学部に団員がいるため、音楽を超えた活動も広く開かれています。練習は主に商学部や文理学部の教室などを利用し、週3回行っています。毎年6月と12月に開催される定期演奏会や卒業式で演奏しますので、皆さん聞いてください。昨年12月の演奏会では過去最高となる約1,300人の方にご来場いただきました。これに満足せず、多くの方に感動していただくため、今後いっそう練習に精進していきたいと思っています。

(文理学部3年 団長・新城英之)

表紙の写真

学生の学術・研究・スポーツ活動を応援する目的で、本誌の表紙を学生のために広く開放し、活動発表の場にしたとを考えました。

新春企画

総長・理事長対談

明治22年10月、日本法律学校として設立された日本大学は、今年120周年の節目を迎える。この記念すべき年の初春を迎え、昨年9月就任された新総長・酒井健夫先生、新理事長・田中英壽先生に、将来アナウンサーを目指している芸術学部放送学科3年生の高安伶奈さんがお話を伺った。



日本大学総長
酒井 健夫
昭和41年農獣医学部
農獣医学科卒業

(さかい・たけお) 昭和18年東京都生まれ。本学卒業後、東京大学医学研究所、厚生省(現・厚生労働省)、台糖ファイザー(現・ファイザー製薬)薬理研究所を経て、昭和56年本学農獣医学部専任講師に就任。平成5年教授、17年学部長、19年副総長を経て、20年9月第12代総長に就任。医学博士。専門は獣医療疫学。農畜省獣医審議会会長、厚生省薬事・食品衛生審議会臨時委員、内閣府食品安全委員会委員、日本獣医師会理事、私立獣医科大学協会会長などを歴任。

スマートではなかったけれど、目的をもってがむしゃらに過ごした学生時代

——本日は、総長・理事長というお立場をちょっと離れていただき、日本大学のOBとして、お話を伺いたいと思います。酒井先生は農獣医学部、田中先生は経済学部^{けいご}に学ばれましたが、どのような学生生活を送られたのですか？

酒井 僕は山梨で育ったのですが、祖父が競走馬を育て、保有していて、小さいときから、身近に馬がいました。農獣医学部に入学したのも、子ども時代の環境が影響したのだと思います。入学当時は、今のようなペットブームなどありませんでしたし、地方では牛馬を労働力として利用していた時代ですから、診療対象は牛と馬。そのころは東京の三軒茶屋に校舎があり、馬や牛をたくさん飼育していました。今では考えられないでしょう。飼育している動物たちの世話もすべて、学生たちがしていました。「もの」のない時代でしたから、5キロほど離れた多摩川まで、馬の餌になる草を刈りに行ったりして、毎日大変でしたが、自分たちの将来の方向性と、やるべき勉強が日常生活と一体化していたように思います。

勉強にスポーツに 互いに充実した学生時代 元気な日大を目指して 二人三脚で頑張ります

田中 わたしは、大学入学と同時に相撲部での合宿生活に入って、やることすべてが初体験で戸惑いました。青森出身でしたから、方言をからかわれたり、失敗することも多く、しかられてばかりでした。今以上に、先輩後輩の上下関係は厳しかったのですが、それだけではありません。合宿所の隣には、「花籠部屋」という相撲部屋があり、壁の向こうは「プロの世界」です。本当に、よくしごかれました。

わたしには、高校の教員になるという目標がありましたから、学部の授業と別に教職課程を取らなければなりません。単位数が多いので、昼間だけでは無理で、夜間の授業も受けていました。朝起きて、相撲の稽古^{けいこ}をして、昼夜、勉強して、戻ってきて、共同生活していたのですから、夜寝るのはいつも、午前2時、3時。翌朝は6時に起こされるのですから、文字通り、寝る間もなかったですね。

酒井 おそらく人の2倍も3倍も高い密度で時間を過ごされたのでしょうか。稽古をして経済学の勉強をして、教職課程の勉強もして、大変敬服します。

田中 それに、学生紛争^{けんそう}が加わりましたからね。ある意味、めったに経験できないほど充実した学生時代を過ごしたと思います。でも、われわれの年代だけが紛争の影響で卒業式が行われなかった。今からでもいいから、大学に卒業式をやってもらいたいくらいです(笑)。

酒井 日本大学に限らず、全国の学生が立ち上がった時期でしたね。新しい時代に向かう大きなエネルギーが渦巻いたときでした。わたしは、昭和37年に入学、41年に卒業しましたが、新幹線が開通し、39年には東京オリンピックが開催されるという時期に重なっています。日本が高度経済成長の真っただ中で、エネルギーが膨らんできている時代でしたから、わたしたち学生も何事にも飛びついて、意欲的に時間を過ごしていたように記憶しています。

食べて飲んで会話する——コミュニケーションを大切に作る時間をつくる

——次に、プライベートなお時間の過ごし方を聞かせていただきたいと思います。趣味はおもちゃですか？ また、激務の毎日の中、気分転換、ストレス解消に、どのようなことをされているのか、伺いたいと思います。

酒井 趣味といえば、油絵を描くことですね。学生時代から続いています。思ったことを描く」という気持ちで向かっていますので、風景、静物、人物と描く対象はさまざまです。自宅でキャンパスを前にすると、心が落ち着きます。

それから、料理が大好きです。夜中に一人で料理を作ると、ストレス解消できます。腕前を自慢するわけではありませんが、今ある材料で短時間に料理を作るのが得意です。研究室では、以前、学生の夕飯は僕が作っていた時代もありました。スープ類やボルシチなど、夜中に作ってみんなで食べるのですが、評判は良かったと思います。コンビニなどの弁当も早く食べるにはいいけれど、たとえ、ごはんのみそ汁だけでも、作った「温かい」食べ物が、心も温めてくれるのだ



日本大学理事長
田中 英壽
昭和44年経済学部
経済学科卒業

(たなか・ひでとし) 昭和21年青森県生まれ。本学卒業後、本学農獣医学部体育助手を経て、昭和48年本学本部保健体育事務局に勤務。59年から本学保健体育審議会相撲部監督、平成8年から保健体育事務局次長を務め、11年本学理事。12年保健体育事務局長。13年校友会本部事務局長、同部長、同副会長。14年本学常務理事。16年校友会会長代行、17年校友会会長となり、20年再選。同年9月本学理事長に就任。日本オリンピック委員会(JOC)常務理事、財団法人日本相撲連盟副会長、国際相撲連盟会長などを歴任。

と思います。

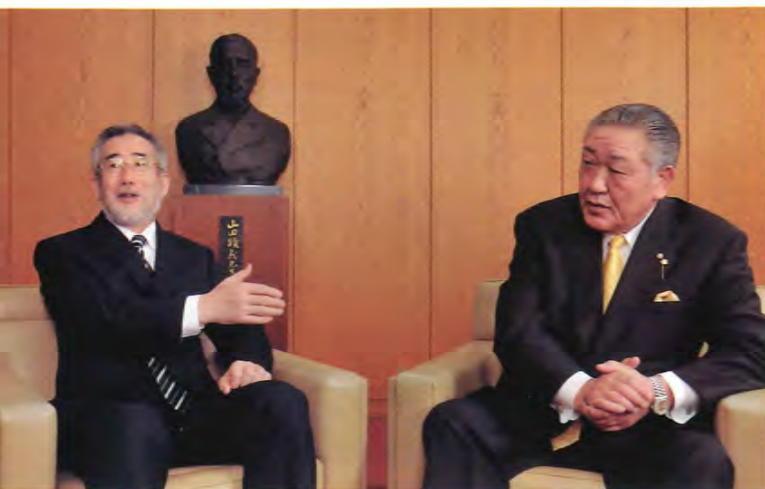
田中 わたしはカラオケです。演歌でも何でも歌います。それから、学生と一緒にちゃんこを囲んで酒を飲むことですね。相撲部の監督をしていますから、練習を終えた夜7時頃から学生たちと飯を食べて、午前1時、2時まで学生と話をしながら、酒を飲んでいます。それでストレス解消しているのかな。説教される学生は大変だろうけど(笑)。

酒井 でも、そういうところから、監督と選手のコミュニケーションが生まれてくるんですね。大切なのは、コミュニケーションのある生活や環境をいかに育てるかです。そうしないと意思は伝達されないでしょう。たとえ、多くは話さなくても、一緒に食事し、会話をすることが、大きなコミュニケーションの場になると思います。

田中 部の活動だと、合宿生活がほとんどだから、学生も教師もずっと一緒でしょう。一緒にいる時間が長いから、練習だけではなく、いろいろなことをやりますね。地方に合宿に行けば、練習の合間に温泉にも行きます。背中を流させたりして、文字通り裸のつきあいをしていますね。



先輩(総長、理事長)から後輩(高安さん)へ、学生時代の思い出を語るお二人。楽しい思い出話に思わず笑顔がこぼれる



「強く、たくましい」日本大学のスクールカラーを打ち出したい

——先生方の時代と今とでは、ずいぶんと学生の生活も気質も変わったでしょうね。

田中 まず、経済状態が違いますね。「もの」のない時代でした。そんなとき、相撲の選手として活動していたわけです。「ちゃんこ」というと、いろんな美味しいものがたくさん入っていると思うでしょ。でも、当時は、7、8人で囲む鍋に、豚肉は30切れくらい。あとは野菜で、先輩から先に食べるから、最後に残っているのはスープとわずかな野菜だけ。それをおかず、わたしはごはんを丼で8杯食べた。それを食べなければ生きていけません。一つ下の学年に、後に横綱になる輪島がいたけれど、彼はちゃんこの汁をかけて10杯は食べていたね(笑)。

酒井 すき焼きなどは、家庭で年に1、2回食べたかどうかの時代でした。日本中がそういう時代でした。

田中 今みたいに、マグロのトロやステーキなんて、先輩が差し入れてくれるときくらいにしか、お目にかかったことがありませんでした。でも、隣が花籠部屋だったので、お酒は自由に飲ませてくれました。

酒井 「もの」のない時代だったからこそ、先生と学生がお互いに助け合っただけで一体となっていたような気がします。わた

したち学生も、お金はなくてもお酒は飲みたい。理事長は、そんなとき花籠部屋に行かれたようですが、わたしは先生の研究室や自宅に何って、無理を言って飲ませてもらっていましたね。でも、今思うと当時の先生って大変でしたでしょうね(笑)。

あのころは、勉強だけでなく、バランスよく、いろいろなことに「がむしゃら」にチャレンジしていましたね。そういうことが許された時代だったのかもしれないけれど。それに比べると、今の学生さんはスマートだけど、ちょっとおとなしい。もう少しエネルギーをもって活発であってほしいですね。「強く、明るく、しなやかな」学生でいてほしいと思います。

——それでは、最後に、今年1年の抱負をいただきたいと思っています。

酒井 田中理事長と一緒に日本大学を教育面、研究面、スポーツ面、すべてにおいて一番にしたいです。

田中 そう、勉強もスポーツも元気良くしていきたい。昔は、「スポーツの日大」と言われていたのですが、最近低迷気味なので、何とか強くしたいですね。酒井先生には研究面をお願いし、わたしは運動部出身ですから運動面を担当して、二人三脚で頑張っていきたいと思っています。

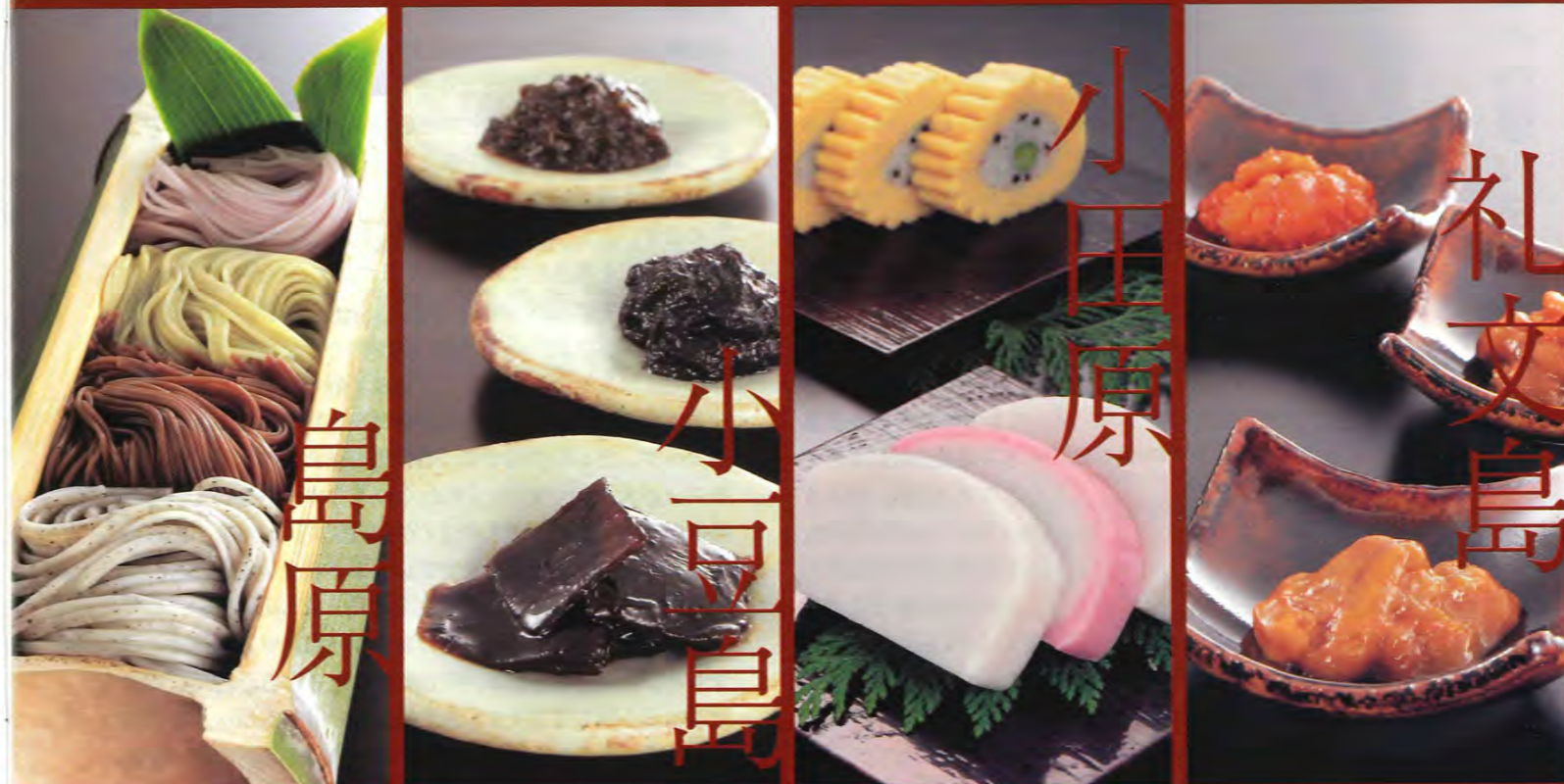
聞き手 高安 伶奈 (芸術学部放送学科3年)



初めてお会いする先生方のお話をどうやって進めていけばいいのか、とてもいい経験になりました。最初、ちょっと怖い感じがした田中理事長は、学生時代の話になると、一転して楽しい話題をたくさん話してください。酒井総長は、心配りを欠かさず、わたしが言葉に詰まらないようにしてくださいました。総長がおっしゃるように、何事にも活発に挑戦し、私の目標であるアナウンサーとなり、頑張ります。

ふるさと おも
故郷への想いを
味に託して

特集



諸国にうまいものあり。

風土がはぐくんだ「実り」は、先人の知恵や技によって磨きをかけられ、逸品となった。

その逸品に新たな風を吹き込みながら、次代へつなげていこうとする人たちがいる。

生まれ育った土地への限りない愛着とともに、その発展を願う、

そんな人たちの出会いを求め、各地を巡った。

一高本舗



代表取締役
殿村 高平さん
(平成2年工学部建築学科卒業)

(とのむら・こうへい) 昭和42年長崎県生まれ。本学卒業後、鹿島建設に入社し、ビル等の建設・監理に携わる。29歳で一級建築士取得。平成13年に退社し、実家の「めんの一」に入社。1年間日本製粉九州支店で実務を学ぶ。18年一高本舗を設立し、20年4月には、手延べめんカフェ「一高本舗」をオープンし、そうめんの新しい味わい方を提案している。

一年を通して、身近に、手軽に
そうめんを楽しんでほしいですね

「会社を株式会社にするから、戻って来てくれないか」とおやじから切り出されたのが33歳のとき。建設会社に入って10年が過ぎ、仕事が面白くなってきたところで、正直、悩みました。結局、カミさんの「いいんじゃないの」という一言で、島原の太陽と風と豊かな湧水から作られる島原そうめんに、「自分のこれからの人生かけるんだ！」って決断できました。

それから1年、九州の製粉工場で「めん」「粉」を徹底的に学んで仕事に就きましたが、手延べそうめん作りは家内工業の形態ですから、それまでの仕事と大きなギャップがありました。最初に始めたのが、職人さんたちの家にある作業場の清掃指導！食品なので衛生管理の改善に取り組みました。これ以外にも、長年続けてきたやり方をいちいち指示される

INFORMATION

●有限会社 一高本舗

平成18年創業。親会社は、昭和47年創業の島原手延べそうめんの製造販売を手掛ける株式会社山一。「手延べめん食文化の継承と普及」を理念として掲げ、一年を通じてそうめんに親しんでもらおうと、そうめんカフェを企画。平成3年の普賢岳噴火の際に利用された仮設住宅をリノベーションした店舗で、アイデアそうめん料理を展開している。

【交通】 車利用の場合 島原外港駅から口之津港方面に約8分・道の駅みずなし本陣かえから約2分
【住所】 長崎県南島原市深江町丁4615-2
【TEL】 0957-72-7119
【URL】 <http://www.ichi-ko.jp>



各種素材を練り込んだ人気商品



制作に約2年を要したかとうかずおさんお手製の紙粘土人形。そうめん作りの工程が楽しく学べる



大人気黒ごまめんを使った和風ペペロンチーノ

のですから、軋轢も生じました。あとで聞きましたが、おやじが矢面に立ってくれたようです。でもその結果、手延べめん製造・販売部門で日本初のISO9001:2000の認証取得ができ、職人さんたちの意識を変えることができました。

そうめんは季節商品のように思われがちですが、一年中楽しめます。うちでは、黒ごま、わかめ、紫芋などを練り込んだそうめんを製造していますが、そのめんを生かした料理を、地元の方たちに食べていただきたいという気持ちで、昨年、手延べめんカフェ「一高本舗」を開店しました。

店では地産地消を意識して、島原半島の野菜・果物を使用するようにしています。また、時間をかけて作るシェフ特製のスープ、だしも自慢です。特に黒ごまめんの和風ペペロンチーノが大評判ですが、「おたくのそうめんを食べて、そうめんが大好きになりました」「うちの家族はおたくのそうめんでないと食べません」などというお言葉をいただくと、舞い上がるほど、うれしいですね。

昨年6月に、日本橋三越の「日本全国匠の味」というイベントに、イートイン形式^(注)で出店したところ、とても好評で手応えを感じました。「いずれ銀座に店をもつ！」を目標に、島原の風土から生まれたそうめんを、地元をアピールし、ふるさとに活力をもたらしたいと思っています。

(注)「テイクアウト(持ち帰り)」の対義語で、店舗内に、その場で食べることができるよう客席を設けた形式

宝食品



代表取締役社長
浅尾 正勝さん
(昭和41年商学部商業学科卒業)

(あさお・まさかつ) 昭和19年香川県生まれ。大学卒業後、ふるさと小豆島に戻り、宝食品株式会社に入社。平成15年、5代目社長に就任。社長であり、世界中から良い食材を見つけ出しは商品開発もリードするアイデアマン。食の安全のために、大気関係第四種公害防止管理者、水質関係第四種公害防止管理者などの資格を取得した実務派でもある。

健康と、安全性と、食の未来と
すべてを紡ぐのは、誇れる「地の味」

「地元の食材を使った、地域に密着した商品作りをして、地場産業の活性化を」。これこそがわたしの、そしてわが社の目指すところです。

戦後、食べ物がなかった時代に、甘みと深いうま味をもつ小豆島の醤油を使ったおかずとして生まれた小豆島の佃煮。わが社は、創業以来、島を代表するブランド・丸金醤油だけを使い、佃煮などの製品を作っています。丸金といえば、昭和29年に公開された映画「二十四の瞳」の有名な白壁のシーンで多くの人の印象に残っていると思います。島には、この映画のセットを再現したテーマパークがあり、小豆島観光の一つの目玉になっていますが、わが社もここにアンテナショップを出店しています。

INFORMATION

●宝食品 株式会社

昭和23年創業。平成18年「第28回食品産業優良企業 農林水産大臣賞」受賞。佃煮にオリーブに含まれるポリフェノールを添加した商品や四万十川のりを100%使った商品など、商品開発の独自性で他社と一線を画す。人気商品は「のり佃煮 四万十川のり100%」「ごっつおいしい昆布」など。讃岐三番(讃岐牛・讃岐豚・讃岐コーチン)を使ったカレーは、隠し味に醤油とオリーブ茶葉を使った和風味で評判。

わが社は、美味しく、衛生的にも安全な佃煮を作り出すと、わたしの父を含めた十数人が立ち上げた会社です。創業と同時に神戸の缶詰製造会社と提携し、当時としては飛び抜けた最先端の衛生管理技術で佃煮製造を行っていました。今では業界大手に成長した企業も、海外の企業も、わが社の製造方法や衛生管理方法を学ぶために、こぞって社員を派遣してきたほどです。昨年で創業60周年を迎え、今では9,000m²の広さの工場をもつまでに成長しました。しかし、今でも、創業者たちの思いはそのままに、最近では新舎気調理システムを導入し、衛生的で、しかも味と食感を損なわず、常温での保存が長期可能な商品を作り出しています。

小豆島の澄んだ空気と、瀬戸内の豊かな恵みという、わたしたちに与えられた最大の天恵を生かすため、会社のトップとしては勉強の毎日です。設備開発のために機械メーカーと常に意見交換をしたり、より安全安心な工場運営のために排水処理や大気汚染について、一から勉強して資格を取得したり、本当に美味しいと思った四万十川ののりを買付けのために駆けずり回ったり……とにかく、自分が動かなければ何も始まらない毎日。

でも、不思議とストレスはたまらない。自分のアイデアが商品となる喜びとか、扱ったことのない良い原料に出会えたときの至福感とか……そんなうれしさが、仕事の疲れを忘れさせてくれるんです。

衛生的で安全な佃煮作りを支える最新式の機械が並ぶ工場内



香川の特産を生かしたレトルトカレー(右上) 美味しい四万十川のり100%の瓶詰めと小豆島特産のオリーブを使ったオリーブ茶のり(右)



【交通】 高松港~小豆島 フェリーで70分、高速艇で40分 土庄港・坂出港よりバス(丸金醤油記念館下車)
【住所】 香川県小豆郡小豆島町菟野甲2226-15
【TEL】 0879-82-2233(代表)
【URL】 <http://www.takara-s.co.jp/>



小田原のかまぼこ

丸う田代



代表取締役社長
田代 勇生さん
(昭和57年農学研究所博士後期課程修了)

(たしろ・いさお) 昭和29年神奈川県生まれ。本学卒業後、本学大学院農学研究科に進学。昭和57年農学博士号取得。同年、丸う田代に入社、静岡工場勤務を経て、58年副社長に就任。平成4年より代表取締役社長。5代目を受け継ぐ。「節度ある増産」という先代の教えの中、新たな直営店展開も計画中。

小田原かまぼこは 小田原の地なくしては作れません

かまぼこは、平安初期の記録に出てくるほどの歴史ある食品で、日本人に長く食されていますが、本来は、目の前の海で捕れる「地の魚」を保存するため加工されたものです。でも、小田原のかまぼこはちょっと違うんですよ。

小田原は、一大消費地・東京に近い。そのため、東京人の嗜好にかなうように、色が白く、つやと弾力があり、味の濃いかまぼこが求められました。そこで、わざわざ遠方の長崎や下関からグチという白身の魚を貨車で運び込みました。その結果、鮮度や魚の味に頼らず、魚を水にさらしてうま味を引き出し、みりん、砂糖などで調味する技術が発達したのです。箱根山系の美味しい水も幸いましたね。その結果、小田原のかまぼこは高級かまぼこと評され、全国に広まりました。

INFORMATION

●株式会社 丸う田代

創業140年余(明治2年)のかまぼこの老舗。初代・田代卯之助が鮮魚店の傍ら、かまぼこを製造したのが始まり。「信用と信頼」を家訓とし、時代に即した開発・改良を重ねてきた。旧東海道沿いの店舗には、大正期の重厚な建物がそのまま残り、店の一角には「かまぼこ伝統館」が設けられ、店やかまぼこの歴史などが学べる。

【交通】 小田原駅から徒歩約20分
バス(国府津行)約3分唐人町バス停下車
【住所】 神奈川県小田原市浜町3-6-13
【TEL】 0465-22-9221
【URL】 <http://www.maruu-kamaboko.com>



歴史と伝統が感じられる店内



天然の良水と厳しく吟味された原材料、そして鍛え抜かれた職人の技が生み出す逸品

た。小田原のかまぼこは東京に育てられたようなものです。うちのかまぼこの特長は、グチとスケトウダラのブレンドであること。グチだけより絶対美味しいですよ。原料は「国産品」で「添加物なし」というこだわりをもっています。38歳で5代目ののれんを受け継ぎましたが、そもそもは、先生に勧められるままに博士号を取り、大学に残ろうと思っていた人間ですから、経営は上手ではありません。特に、最近は原料不足と値段高騰で、このままではかまぼこが食べられなくなる時代がくる危惧さえ感じます。ただ、近年の「食の安全」や「健康志向」の流れは、私の経験を生かす場を与えてくれます。講演会などでは、農学博士という立場で、たとえば「かまぼこ健康」について話すと言われます。実際、かまぼこはメタボリック症候群や高血圧に効果的な食品です。やっと私のカラーが出てきたでしょうか。代ごとに時代に即した工夫と努力がなされてきましたが、こうしたことが、140年の歴史を紡いできたのでしょうか。また、小田原が元気になれば、かまぼこ産業も元気になると信じ、まちづくりにも積極的に参加し、5年前からは「小田原おでん」を手掛けています。この町に13軒あるかまぼこ店がそれぞれ1品のネタを提供し、地元で農家で作った大根や卵などを小田原産梅味噌で食べるのが特長です。平日はかまぼこ屋、土日はおでん屋のおやじとして奮闘しています。

礼文島のウニ商品

笹山商店



代表
笹山 啓さん
(昭和55年芸術学部写真学科卒業)

(ささやま・けい) 昭和31年、北海道生まれ。本学卒業後は、フリーのカメラマンとして活躍。28歳のとき、結婚と時を同じくして、父親が逝去。新妻を連れて礼文島に戻り、笹山商店2代目となる。島の教育環境は意外なほどに良いと語り、事実、島で授かった3人の娘さんは東京、札幌や関西などの難関校に通っている。礼文町議会議員。

宝の島・礼文島の厳しい自然が 生み出す「オラが海」生粋の味

大学時代は三木淳(注)先生のゼミにいました。三木先生には「礼文島出身」ということで、すぐに顔を覚えていただきました。そのとき先生に言われた、「半端な田舎じゃなくて良かったな。礼文育ちのオマエは、踏まれても生きていける。頑張れよ」と言葉が忘れられないですね。

写真学科では、フィルムや印画紙を上手に現像するために「むらを作らない技術」を徹底的に学びました。このことが今の仕事に本当に役立っています。液をしっかりと攪拌する、温度むらをなくす、不純物を入れない…ウニの塩漬け加工にもそのまま使えるんです。だから、採ってきたばかりの新鮮なウニの美味しさを、均一に加工してそのまま閉じ込める、その技術には自信を持っています。

INFORMATION

●さ印 笹山商店

昭和21年創業。春から夏にかけてはウニを、冬は活ガニなどを取り扱う海産物、海産加工物卸店。「採れたてをそのまま閉じ込めた」塩漬けウニの瓶詰は、ミネラル豊富な海で育った最高の昆布を食べるため、味が濃厚で美味しいウニが採れるという礼文島の中でも「極上」との評判。味噌漬けたウニの瓶詰も珍味として人気がある。卸店のため、札幌方面への出荷が主となっている。

離島の暮らしで一番苦労するのは、やっぱり流通の不便さ。時間のロスも大きい。でも、都会と距離を隔てて、厳しい自然が残っている所だからこそ、美味しいものが採れるんです。われわれにとっては、不便さこそが最強の武器。厳しい自然環境がわれわれを生かしてくれるんだって、常々思っています。だからこそ、漁師も、海産物の加工を仕事としている人も、みんな思っていますよ。「オラが海で捕れたものが一番うまい!」って。

礼文のウニは味が濃くて、甘みが深い。その味に誇りをもっているからこそ、添加物は一切入れません。子どもたちからおじいちゃん、おばあちゃんまで安心して美味しく食べていただける商品を作るため、夫婦二人で早朝から夜遅くまで頑張っています。

かなうなら、うちの商品は「礼文島の空気と一緒に」食べていただくのが一番美味しい。この島は、世界で唯一、海拔0メートルから高山植物が見られる所。島全体がトレッキングコースになっていて、普通に道を歩いている、エーデルワイスなど200種以上の高山植物が見られる。この美しい「宝の島」の空気をいっぱい吸いながら、うちの商品をはじめ(笑)、地の海産物を味わっていただきたいですね。



保存料を一切使用していない笹山さんの自信作塩漬けたウニの瓶詰と味噌漬けたウニの瓶詰

丘の上から笹山さんが住む港を望む
遠くには利尻富士が



(注) 三木淳 元本学芸術学部教授。日本人として初めて米国「LIFE」誌に写真が掲載された報道写真家。日本写真家協会会長、日本写真作家協会会長なども務める。平成4年没

【交通】 稚内港フェリーターミナルより礼文島行きフェリーで2時間。礼文島・香深港よりタクシーで10分
【住所】 北海道礼文郡礼文町大字香深字知床
【TEL】 0163-86-1565
【FAX】 0163-86-2028



“こころ”は言葉が伝える 消えゆく島の“こころ”の継承を文字に託す



奄美方言研究者
岡村 隆博さん

(昭和34年文理学部国文学科通信教育課程卒業)

(おかわら・たかひろ) 昭和11年鹿児島県生まれ。本学卒業後、昭和34年より、教員として鹿児島県内の中学校に38年間勤務。本学在学中に始めた奄美方言の研究は、在職中には国内留学制度を利用して東京大学の言語学科などで学び、定年後、本格的な研究となる。その成果は、鹿児島県育英財団研究助成により『徳之島方言の総合的研究』を発表するほか、共同研究により『徳之島方言二千年辞典』も発表。研究発表多数。著書に『奄美方言～カナ文字での書き方～』（南方新社）がある。



岡村さんが研究成果を発表した研究雑誌。定年後、初めて自由な時間をもった岡村さんは、方言の研究に没頭する。その成果は各誌に次々と投稿され、ユニークであると同時に質の高い研究内容は、高い評価を得ている。

—奄美の歴史と、方言研究を始めたことに関係はあったのですか？

わたしと方言研究との出会いは、一つの素朴な疑問から始まりました。「なぜ、奄美の島口（島の方言）は日本の文字で書けないのか？ 果たして島口は日本語なのか？」。そしてそれは、「島人は日本人なのか？」という問題意識につながっていきました。

わたしの故郷であり、終のすみかでもある徳之島は、言葉の分類では琉球文化圏。歴史的には琉球王朝の支配下にあったとされています。その後、廃藩置県までは薩摩の支配下にあり、徹底的な砂糖の搾取、いわゆる「砂糖地獄」の辛酸をなめました。そうした哀しい歴史を乗り越え、徳之島を含む大島郡は戦前まで、ずっと鹿児島県に属していました。しかし、戦後、沖縄と同じように奄美の島々はアメリカの信託統治の下、日本本土から切り離されていました。日本的なものは何もかも否定され、本土への渡航も禁止され、交流は閉ざされてしまったのです。

日本近代史を記した多くの書物の中で、この歴史的事実は欠け落ちています。沖縄や小笠原の本土復帰の話は記されていても、奄美のこの事実には触れていないのです。昭和28年12月25日、クリスマスプレゼントとして日本へ返還されるまで、奄美の島人たちは、異民族支配下での閉ざされた生活を強いられました。

そんな閉鎖社会の中、日本復帰を願う人々の情熱は、奄美の文化を深く考え直す機運につながり、多くの文学や演劇などを生み出し、それらは「赤土文化」と呼ばれました。奄美の人たちが、自分たちのアイデンティティを明確に意識し、自分たちの文化を子孫に伝える使命を感じるきっかけでした。返還当時、高校2年生だったわたしの胸の中にも、「伝える使命」が刻み付けられたのだと思います。

運命の出会い。日本大学に通信教育課程があったから…

—本格的に方言研究を始めたのはいつごろですか？ どんなきっかけがあったのですか？

文化を受け継いでいくための最も大きな手掛かりとなるのが言葉＝島口でした。言葉をよりどころにして、地域や奄美全体の研究を進めることが、美しいこの島の原風景と、綿々と受け継がれて来た島人の「こころ」を留め置くことにはなるのではないか。大学入学にあたり、国文学科を志望したのは、そんな思いがわたしの中にあっただからだと思います。

そして選んだのが、文理学部国文学科の通信教育課程でした。ここで、柴田武先生(故人)と出会ったことが、わたしの方言研究の道の始まりでした。

先生は、国立国語研究所の地方言語研究室長の傍ら、日本大学で卒業論文の指導にあたっておられました。当時、私は3年生。専門課程で「国語学概論」「言語学概論」を学び、音声記号や音韻記号についての知識を得て、島口を学問的に見直してみようと、本気で思い始めたころでした。島口の発音を表記する方法を探していたわたしは、卒論指導で初めてお目にかかった先生に、日本の文字では書き表せないと思

っていた、いくつかの島口を発音して、質問をしました。

すると驚くことに先生は、ローマ字とわずかな記号を使って、すべての単語を



昭和34年の通信教育部の卒業アルバム。方言研究に目覚めた、21歳のころの岡村さんが写っている

今でも大切に保管されている学生時代のレポート。なかを開くと、原稿用紙のマス目に丁寧に書かれた文字と少し色あせた添削の赤字から、知識を貪欲に吸収しようとしていた若いころの岡村さんが容易に想像できる



取材中、島を巡りながら島口と島の自然の美しさを熱心に語った岡村さん。話を伺いながら島を巡ると、島口に奄美の原風景が見えてくる（白い砂浜が続く睦ブリンビーチにて）

その場で書き表してくれました。それだけでなく、徳之島の方言には「中舌母音がある」「声門閉鎖音と非声門閉鎖音の対立がある」といった特徴も指摘してくれました。そして、「島口の研究の意義は大きい」と、背中を押してもらいました。

「文字をもたない言語」であると考えていた島口が、きちんと表記できるということは、私にとって大きな驚きであると同時に、大きな喜びでした。柴田先生との出会いによって大きく道が開かれた思いで、卒論のテーマを「徳之島方言の音韻」とし、以降、今日まで方言の研究をライフワークとしてきました。

大学時代の4年間は、親戚の会社にお世話になり、働きながら独学の日々でした。でも、卒業後のわたしの人生の基礎

昨年5月、文理学部で開かれた「日本方言研究会 第86回研究発表会」で発表中の岡村さん。遠く離れていても母校は懐かしく、普段より力が入ったという

に、日本大学の通信教育部で、先生方とレポートのやりとりをした日々があると思います。学びやに通った日々はわずかでしたが、母校は何年たっても懐かしいし、ありがたいから不思議なものです。

——鳥口を仮名表記することの意味とは？そして、これからしてみたいことを聞かせてください。

鳥口を仮名文字で表記することを思い立ったのは、『徳之島方言二千文辞典』（共著）の制作過程で、ローマ字表記で記述された鳥口の文章を音声として録音することになったとき、自分がローマ字で書いた方言の文章が思うように読めなかったことがきっかけでした。工夫してみると、旧仮名遣いの「キ」と「エ」を使って中舌母音が、2つの発音記号「i」「e」

で声門閉鎖音と非声門閉鎖音が表記できることが分かりました。すると、これだけのことで、スラスラと読めるようになったんです。

どの言語でも、個々の言語活動をそのまま文字に表すのは難しいものです。鳥口はこれまで、ローマ字といくつかの発音記号の組み合わせで表記することはできて、日本の文字では表記できなかった。それを分かりやすい仮名を使って表記することで、鳥口を一部の学者のためのものでなく、広く方言を愛する人たちにも広げていきたかったのです。そのための手引書として



犬之門蓋（インヌジョウフタ）にて



奄美地方を代表する鳥アカショウビン(上)とアダン(右)
(撮影は弟・耕吉さん)

書いた本が『奄美方言～カナ文字での書き方～』です。

鳥口は今、集落間、地域間の差が消え、「おじや言葉」（どこの地域かわからない雑炊のような言葉）へと変わってきています。発音や語法も変わり、独特の情緒のある表現も失われつつあります。このままでは、優しさと懐かしさに包まれた島の心を伝える言葉が霧散してしまうかもしれない。

だからこそ、私たちのような在野の、鳥口を話せる人間が言葉を書き残し、次代につなげていかなければいけない。子どもや孫に奄美の心と言葉を残すために、これからの人生もチャレンジを続けたいと思います。

多くの人の協力を得て『徳之島方言辞典』を編さんすること。教育者として歩んだ人生の思いをまとめた随筆集を出すこと。『奄美方言～カナ文字での書き方～』をさらに推敲して、文理学部へ「博士論文」として提出すること。そんな、夢や目標がある限り、情熱は尽きません。



あなたと大学の懸け橋になります

日本大学新聞

「日本大学新聞」は1921年に創刊され、87年を迎えました。各学部のニュースや、スポーツ・サークル活動、特集や連載企画が満載。学部、校友や付属校をつなぐ「日大新聞」をぜひご愛読ください。



2009年
4月発行
予定!!

日大スポーツ'08

グラフ&ストーリー

1冊/500円
(送料込み)

縮刷版

4年間の大学の動きがひとめで分かる
(2005年4月～2009年1月)

1冊/2,000円
(送料込み)

第25回 日大文芸賞

小説、評論、エッセー等未発表のものに限ります。

文芸賞=1編(副賞 30万円)
優秀賞=1編(同 10万円)
佳作=3編(同 5万円)

- 資格 本学学生、教職員、校友
- 締め切り 2009年3月31日(当日消印有効)
- 枚数 50枚以内(400字詰め原稿用紙)
ワープロの場合は、マスのないA4版用紙に縦20字×横20行で縦書きに印字したもの
- 記入事項 氏名、住所、電話番号、性別、年齢、学部・学科・学年(職業)

お申し込み・お問い合わせ先

日本大学新聞社

E-mail: nup.info.news@nihon-u.ac.jp

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 TEL: 03-5275-8144 FAX: 03-5275-8331



福井県敦賀市長
河瀬 一治さん
(昭和51年商学部経営学科卒業)

“港”と“鉄道”と“電気”のまち 地域資源を生かしたまちづくりを目指す

(かわせ・かずはる) 昭和26年福井県生まれ。本学在学中より父親の選挙運動を支援。昭和58年、32歳で敦賀市議会議員初当選。2期務めた後、平成3年福井県議会議員に当選する。7年には、43歳で敦賀市長選に出馬し、当選。19年に4期目の市長職に就き、「世界とふれあう港まち 魅力あふれる交流都市 敦賀」の実現に向け、自ら考え判断し行動する市長として熱い情熱で市政にチャレンジしている。全国原子力発電所所在市町村協議会長。趣味は、スポーツと楽器演奏。バンドを組んでのコンサート開催は、今までに200回を超える。また、腕相撲全日本6位の入賞経験あり。妻と息子3人、娘1人の6人家族。

父の意思を継いだ市長職

敦賀駅から、大通り沿いに商店街を歩くと、漫画家・松本零士氏のアニメの像が点在しているのに気付く。これらは平成11年、敦賀開港100周年の記念に設置されたもので、発案者は敦賀市長・河瀬一治氏。敦賀での宇宙少年団設立のイベントで松本氏と出会ったことで、ひらめいた。

「敦賀は、北陸本線、小浜線、湖西線の通る鉄道のまちですし、古くから栄えた港がある。ぜひ、『銀河鉄道999』と『宇宙戦艦ヤマト』のモニュメントを設置して『鉄道と港

のまち』をPRしたいと思い、松本先生にお願いしたんですよ。

河瀬氏は、敦賀生まれの敦賀育ち。小学校5年のとき、父親が市議員に立候補して以来、一家総出で選挙に奔走、「気が付いたら、自然に政治の世界に入っていた」という。

河瀬氏が大学1年のとき、父親が市長選に挑戦して敗れたが、その後、県議員に復活。河瀬氏は卒業後、家業を手伝いながら、父親の秘書的役割を担い、後援会の活動をした。しかし、昭和56年、父親が病に倒れる。

「おやじの跡を継いで政治の世界に入るつもりでしたので、まず、市議会議員から出発しましたが、おやじのできなかったことをやり遂げる決意で、市長選は視野に入れていました」。市長になるためには、県政とのつながりも必要だと考え、県議員選挙に出馬。市役所前で「私は、必ずこの2階(市長室)に戻ってきますから」と演説した。そして、県議員を1期務めたとき、市長選のチャンスが巡ってくる。

当時の敦賀市では、町を二分する選挙が続いていた。「地域が二つに分かれて争うことに、みんな嫌気がさしていたのかもしれない。『そんなんやめましょ。若い者に任せてください』と訴えました。でも、お金も組織もなく、家族が頼りの選挙でね。そんな中、学生時代から参加していた『敦賀日大会』が応援してくれて、本当にありがたかった」。河瀬氏は「運が良かった」と話すが、4人の候補者の中で過半数の票を勝ち取っての勝利。以後、13年にわたり、敦賀市政をリードし続けている。

人道の港「敦賀ムゼウム」

古くは、『古事記』『日本書紀』に「角鹿^{つぬが}」と記され、大陸や畿内との交易で栄えた敦賀。戦前は、東京と敦賀港を結ぶ「欧亚国際連絡列車」が走った。人々は、敦賀港から船でウラジオストクへ渡り、シベリア鉄道で一路ヨーロッパを目指

した。まさに欧州に向かって開かれた玄関口であった。

「実は、敦賀にはこの経路を逆にとった人々を受け入れた歴史があります」と河瀬氏。昭和15年、ナチスドイツの迫害から逃れた6,000人のポーランド系ユダヤ人が、リトアニア領事代理・杉原千畝の発行した「命のビザ」を手に、敦賀の港に降り立った。敦賀市民は、彼らを温かく迎えた。

「故国を追われてユーラシア大陸を離れ、敦賀に上陸した彼らの思いはいかばかりだったか」という河瀬氏の思いは、杉原家の協力もあって、その歴史と命の大切さを伝える資料館「人道の港 敦賀ムゼウム」設立につながった。

昨年11月、河瀬氏は、敦賀市長としてアメリカに向き、当時敦賀に降り立ったというユダヤ人2人と面会、熱狂的な歓迎を受けた。それは、古代からの国際港としての役割を果たしていた敦賀の人々が培ってきた「人を受け入れる温かな気持ち」に対する感謝の表れだったのであろう。

「電気のみち」だからこそ、明るくきれいなまちに！

敦賀市は、「原子力発電所を有する電気のみち」でもある。電気をつくるまちだけに、街灯の電気代は市が負担し、文字通り「明るい」まちづくりを目指している。

河瀬氏は、終始、原子力とは共存共栄する姿勢を貫いているが、事故の風評被害は地元大きなダメージを与える。そのため、国にしっかりとした管理を厳しく促すことも忘れない。逆に、原子力反対の意見も受け入れる。「車にはアクセルがあれば、ブレーキもある。反対運動があって、『安全にかなあかんあ』という意識が働くですよ」。

ものごとには賛成・反対があり、全員の意見を実現させることはできない。「でも、意見を聞くことはできます。意見を聞いて、実現が困難なことは、『難しい』と言います」という河瀬氏の姿勢は、「市長がきちんと自分の意見を聞いてくれた」という安心感を生み出している。

分刻みで執務をこなす河瀬市長には、もう一つの顔がある。「敦賀ベンチャーズ」のバンドリーダーという顔だ。担当は「電気のみち」だけに「エレキギター」。ベンチャーズに傾倒



敦賀ムゼウム
ムゼウムとは、ポーランド語で資料館の意味。ポーランド孤児や、杉原千畝の「命のビザ」によって上陸したユダヤ人難民など「人道の港・敦賀」の歴史を知ることができる



し、大学の卒業が1年伸びた(?)ほどの筋金入りで、レパートリーは80曲を超える。本家ベンチャーズをはじめ、加山雄三、ワイルドワンズとの共演もこなした玄人はだした。市長になってからは地域宣伝で日本各地、中国、ロシアなどで200回以上の公演をこなしている。まさにギターを抱いた親善大使。そんな河瀬氏に、敦賀の魅力聞いた。

「信長、秀吉、家康という戦国時代の主役級が一堂に会した金ヶ崎古戦場など、歴史あるまちですが、なんといっても、食べ物がいっぱいおいしい土地。越前ガニなどの海の幸をはじめ、野菜や肉など魅力のある食材が豊富です。『食の観光』にも力を入れています。ぜひ、一度おいでいただきたいですね」。

今と未来を支える「電気」を基盤に、敦賀の歴史と風土の魅力を引き出し、住みよいまちづくりを目指す——河瀬氏の着実な歩みは、敦賀市政の大きな結実を約束する。



金崎宮
南北朝の古戦場となった場所で、後醍醐天皇の皇子である恒良・尊良親王が祭られる。神社の北側は、戦国時代、織田信長が浅井家の裏切りに遭って窮地に陥った「金ヶ崎の退き口」と呼ばれる激戦地



忙しい公務の合間に敦賀ベンチャーズのリーダーとしてライブ活動中の河瀬市長(上)。演奏はCDでも聴ける(右)





困難な事業が社員を育て、競争力を高める！ 技術力でオンリー1、ニュー1を目指す

たいしょう
大泉開発株式会社
代表取締役社長
坂本 和彦さん
(昭和45年経済学部産業経営学科卒業)

(さかもと・かずひこ) 昭和22年青森県生まれ。本学卒業後、測量専門学校を経て、大泉開発株式会社に入社。昭和63年、代表取締役就任。五所川原青年会議所理事長、日本青年会議所青森ブロック会長を歴任。現在は、青森県倫理法人会副会長、倫理経営インストラクター、ライオンズクラブ国際協会地区ガバナーなど。

所では地熱を利用して雪を溶かしながらボーリングをしたり……どれも高度な技術と経験がなければできない仕事です。その上、過去の経験ばかりに頼っていては、やり遂げることのできない仕事ばかりです。社員が本当に良く勉強し、いろんな体験を糧として頑張ってくれています。

——社長として心掛けていらっしゃることは？

経営者として心掛けているのは、「逃げないこと」「社員を公平に扱うこと」「社員の手本になれること」です。

公平な人事評価のために、社員に「通信簿」を配布しています。小学校時代の娘の通信簿をヒントに取り入れてみたのですが、項目別の評価を明確にし、そのすべてについてわたし自身が手書きでコメントを書いています。この試みは、雑誌や新聞などでも取り上げられました。

経営では、利益が出たときには、内部資本として確保する分、生産性の上がる新たな設備投資に回す分、社員に還元する分と、三分割して考えています。受注では、技術的に簡単なものは下請けの会社にお願ひし、わが社で受けるものはあえて難しく、金額も安いものを選んでいきます。ほかの企業のやり方とは違うかもしれませんが、こうしたやり方が、技術力を高め、お客さまの信頼となり、将来の飛躍につながると信じています。

——社長就任以来20年、どんなご苦労がありましたか？

39歳で父の会社を引き継いだわけですが、就任当初は父の

——御社の事業について教えてください

ボーリング工事、地質調査、土壌調査……おおよそ地下に関するすべてとさせていただいていいと思います。官公庁からの発注では、基礎に関する調査・工事や、地震発生時の地震計の設置および移動や、大きな地滑りが起きたときの土地の基礎調査、基礎修復など、災害時のものも多くなりました。また、JICAのODA事業にも技術員として社員を派遣することもあります。これまでに、ネパール、ブータン、グアテマラ、ニカラグア、ナイジェリアなどでのプロジェクトに社員を送り出してきました。

——実際には、どんなお仕事になるのでしょうか

山中の、地滑りが起きた場所までレールを敷き、大きな機械を運び込んで調査や基礎修復工事をしたり、車での移動が困難な場所にはヘリコプターでボー

リングマシンを運び込んで工事をしたり、雪深い場

ODA事業に参加した社員たち。不慣れた土地での経験は社員を人的にも成長させる



最も信頼している弟の和記さん(専務)と

残した負債もありましたし、若さ故の失敗もありました。そこから抜け出せたのは、

「何でも話してよ」と言ってくれた妻のおかげ。そのときから、自分独りで走ることに危うさを学びました。すべてを社員たちと相談しながら、少しずつ進んでいけばいい、と。

——会社を引き継ぐまでの経緯を教えてください

父は、大東亜戦争に従軍したとき、インドネシアの戦線において、さく井工事を見て「水を制するものは世界を制する」と感じ入って、一代で会社を興した人。子どものころは、そんな父の背中を見て、「格好いいな」と思ったものです。ところがこちらも少し世の中を知ってくると、どうにも反発を覚えてしまって(笑)。

大学卒業のとき、わたしは大手商社と都内の放送局から内定をもらうことができたんです。そのころには父の仕事を継ぐ気もなかったもので、父から商社に入るための書類にハンコをもらうため、田舎に帰ったんです。そしたら父が、「判は押せない。押したらお前、戻って来ないだろう？」って。そんなことがあって、父の会社に入ることになったんです。

入社前、都内の専門学校を経て地質調査技士、さく井技師、土木施工管理技士などの資格を取りました。入社してからは、現場で先輩社員にいろいろもまれましたが(笑)、父が興した仕事の面白さとその意義に、だんだん気付いていきました。父とはまだ、微妙な距離を残した関係でしたが。

その距離が一気に縮まったのは20数年前、母が交通事故で亡くなった後でした。そのとき父は60歳。周囲の「まだその年なら、相手がいれば再婚を……」という言葉に、きっぱりと言いつつ切ったんです。「俺の女房は死んだ家内だけだ」って。それを聞いたとき、改めて父が好きになりました。

——学生時代の思い出はありますか？

4年間で何が学べるのかを常に考えていたし、卒業はゴールじゃなくて、スタートだと思っていました。だから、「この

大学を出たことを誇りにしたい」という思いで、よく本を読み、人と意見を戦わせて勉強したと思っています。実際、学生時代に学んだことや友人が、今でも大きな糧になっています。

——ご自身の未来について、考えていることは？

一昨年の夏、食道がんを告知されました。リンパ節にも転移していたので、すぐに胃・食道の全摘など、8時間以上に及ぶ大手術を受けました。現在も3週間に一度の検診と、3カ月に一度の精密検査を受けています。

だから、強く思うんです。「毎日を、心から充実させてやる」と。毎日新しい生きがいに出会い、病気という試練を与えてくれた運命に、逆にお礼が言える毎日にしたい。

今年、30歳にして東京から帰って来た長男にこう言ったんです。「5年後も10年後も、もしかしたらそれ以上先も、この会社でお前と一緒にいい仕事をしよう」。

この言葉を現実にするため、病気と上手につき合い、これからも、この会社を成長させていくことが、わたしの目標です。



高い技術力は、ボーリング方法、冷却装置、地下水位低下装置などで特許を取得(左)。話題となった社員の“通信簿”(右)。これも社員のやる気を引き出すためのアイデア

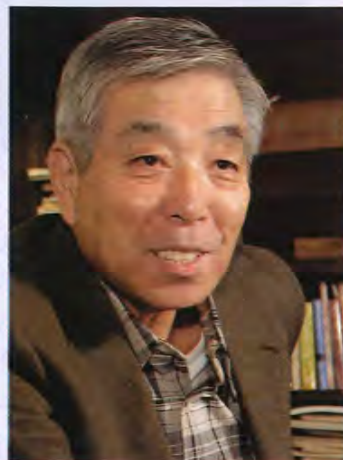


鶴田町の事業本部社屋(左)と東北の名峰岩木山(上)

たいしょう
大泉開発株式会社
所在地/〔本 社〕 青森県青森市浪館前田4-10-25
TEL 017-781-6111(代) FAX 017-781-6070
〔事業本部〕 青森県北津軽郡鶴田町相原87-1
営業所/弘前市、仙台市
創 業/昭和35年1月 HP/http://www.taisen-dev.co.jp/

こ
な
校
友
も
い
ま
す

安全で安心な食の普及に努めて60年余 日本における自然食品の先駆け



(むらい・よしかず) 昭和9年岩手県生まれ。本学卒業後、地元岩手に戻り糧玄食品株式会社に入社し、父親らが始めた盛岡正食普及会の運営に携わる。子どものころから水泳が大好きで日大を選んだ最大の理由は、あこがれの古橋広之進さんと同じ大学で学びたかったため。日大に進学したい一心で入学試験で苦手の数学のない芸術学部を選んだ。水泳への情熱は今でも衰えず仕事の傍ら、岩手県水泳連盟理事長・同副会長を歴任し、若い水泳選手の育成にも尽力している。岩手県パン工業組合理事長、東北地方保護司連盟理事、岩手県保護司会連合会副会長。ちなみに、弟の健祐さん(故人)は元文学部教授で災害心理学の第一人者として知られた人物。

盛岡正食普及会

村井 良和さん

(昭和33年芸術学部演劇学科卒業)

古くから奥州街道の宿駅、北上川水運の起点として発達した盛岡市は、江戸時代初期に南部氏のもとで城下町として整備された。中津川にかかる上の橋の欄干を飾る青銅製の擬宝珠には、慶長14(1609)年、同16年の銘がくっきりとされるされており、当時をしのぼせる。市内には、このほかにも江戸末期や明治期の古建築が残され、景観に趣を添えている。上の橋から東に向かうと、築100年という黒い土蔵がどっしりとたたずむ。ここが、盛岡正食普及会の店舗である。

盛岡正食普及会の理念は「身土不二」

「盛岡正食普及会」の発足は、戦後間もなくのこと。食糧難で代用食や合成食品が出回る中、無双原理に基づく玄米菜食を基本とする「正食」の考え方を支持する、村井良和さんの父・弥兵衛さんら10人が、貴重な本物の食べ物を分け合うために集まったことがきっかけとなった。ちょうど空き店舗となっていた弥兵衛さん所有の蔵に、県産の小麦粉で作ったパン、県産の玄米で作ったもちなどを持ち寄り、はじめは物々交換だったが、次第に商売として軌道に乗った。

以来、約60年にわたって「身土不二」、すなわち「人の体と暮らしている土地は一つ」という理念に基づき、「健康に生きるために地元で作られた食べ物を食べよう」と呼び掛けてきた。村井良和さんは「地元で育った穀物や野菜が、その土地に暮らす人々の体に合わないわけがありません」と語る。村井さん自身、季節ごとの地元産の食べ物を食べて育った。

正食普及会は、運営に個人の思惑が入ることを防ぐため、会長職を置かず、会則を作らず、営利目的の宣伝活動をしない、という共通の認識に立って活動している。しかし、県産の材料による無添加の自然食品が評判を呼び、昭和33年に製粉と加工の糧玄食品株式会社を設立した。この年、大学を卒業した村井さんは盛岡に戻り、正食普及会の責任者になるとともに、糧玄食品の経営も手掛けた。



妻の栄子さんと店頭立つ村井さん。普段からこうしてお客さまの声を直接聞いている

正食普及会の商品。イギリスパン、ライ麦パン、ロシアビスケット。岩手地産の穀物から作った商品は、かもと最近では味わうことができなくなった小麦など、原料の味が口いっぱいに広がる



岩手産小麦粉は味わい豊かで良質

岩手県はもともと小麦を作る気候条件に恵まれていた。害虫を心配するほどには暖かくなく、雪害を心配するほど寒くもない。除草剤や農薬も必要とせず、味わい豊かな良質の小麦粉を作ることができる。

無漂白・無添加の県産小麦粉によるパンをはじめとする商品は、安全性と味わいから固定ファンが多く、ファンを通じて各地に知られ、正食のパンを求めて県外から訪れる人々も増えている。学校給食用のパンも現在20校ほどに納入している。黒い土蔵の店舗には、同じ志をもって自然食品を作っている人々の自信作も含めて約30種類のパンのほか、穀類、めん類、お菓子、加工食品、調味料などが所狭しと並ぶ。人気商品はパン、うどん、ロシアビスケットなど。

若いころの村井さんは評判の自然食品を求めて各地に赴いたとのこと。車に県産・無添加の自慢の商品を満載して出掛け、帰りは地元で紹介したい自然食品を積んで戻ってくる。体にいい食品と取り組む同志たちと共鳴し合い、互いの商品の良さを認めて向上し合う。正食普及会はそういう場でもある。

ブームではない、当たり前の自然食品

正食普及会が地道に活動を続けている間に、日本は高度経済成長期に突入。食生活が欧米化するとともに健康についての関心も増大した。しかし、食生活変化の一つの結果として成人病(生活習慣病)が増えたことから、昭和40年代から50年代にかけて、これを防ぐ効果があるとされた健康食品がブームとなった。一方、食品の工業化が進んだ結果、防腐剤や着色剤などの添加物が使われるようになった。また、農業や畜産では農業・化学肥料・配合飼料が使われ、それらが人



盛岡正食普及会の店舗は、明治末期に井弥商店として建てられた、明治を代表する土蔵造りの建物。昭和52年に盛岡市の保存建造物に指定された。(上) 正食普及会のパンの粉を毎日ひいている製粉機(左)

の体に悪影響を及ぼす恐れが出てきたため、昭和50年代後半からは無農薬・無添加の自然食品がブームとなった。

こうして日本人の食に対する関心は高まっていったが、最近になって食材や食品の産地・賞味期限・添加物などの偽装表示が次々と発覚した。人々は疑心暗鬼に陥り、安心して食べられる安全な食品が今ほど求められていることもない。

ひたすら「正食」と向き合ってきた村井さんは、こうした風潮に心を痛める。村井さんにとって、「正食の普及」は共感を得て実践してもらおうことであり、ブームで終わるはずのない信念である。「食に対する関心が一過性で短期的なブームに帰することなく継続してほしい」との願いを込めて「これからも県産の原料で風土に合った当たり前の自然食品を作り続け、その良さを盛岡から発信していきたい」と、村井さんは静かに語る。

その気負うところのない様子に、正食60年のプライドがうかがえる。

アクセス

【交通】 JR盛岡駅から盛岡都心循環バス「てんでんむし」右回りで15分「上の橋」バス停から徒歩3分
【住所】 岩手県盛岡市上ノ橋町1-48 【TEL】 019-652-3751
【URL】 <http://www.geocities.jp/gallerysaiensu/seishokukai.htm>

いさりょう 一茶寮

盛岡正食普及会で取り扱う食品を供するのが、黒い土蔵裏手にある築300年以上という白壁土蔵2階の喫茶店「一茶寮」。昔ながらの階段を上がると、和の情緒たっぷりのアンティークな調度類に迎えられる。



OB・OGが経営している

お店紹介

静岡県／割烹大花

吉田 裕さん
(昭和52年経済学部経済学科卒業)

時代とお客さまのニーズに合わせた料理と雰囲気づくり、それが三代目流のやり方です

老舗料理屋の気構え

清水港や近隣の港から、新鮮な食材が集まる清水。「割烹大花」がこの地に店を構えたのは大正時代。すでに90年余となる。

会席料理を主とし、最大で100人入る大広間から離れた、風情豊かな場を提供している料理屋で、三代目が吉田裕さん。

お客さまは、ほとんどが常連さん。接待の場にもよく利用される。そのため、「献立を記録しておき、次にいらしたときは違う料理をお出しするようにしています」。サクラエビ、シラス、マグロなど県外の人が大喜びする食材も地元では当たり前。お客さまによって、食材や料理を選んでもてなす配慮は欠かせない。

しかし、人々の食生活のスタイルや料理の嗜好も変化し、老舗割烹を維持するにも工夫がいる。店続きに気軽な雰囲気の「酒飯よし田」を開いたのは、そのためだ。



●プロフィール
吉田 裕

(よしだ・ひろし) 昭和29年静岡県生まれ。本学卒業後、大阪と地元清水で4年間、板前修業。その後、2年間、地元の会社で営業を経験し、58年に実家の「割烹大花」の板場に入る。59年にそれまでの店舗を現在のビルに改装。同時に気軽に料理とお酒を楽しむ「酒飯よし田」を開店し、地元の人たちから愛される店を続けている。

地元で愛される存在であり続けたい

清水でも4、5軒あった割烹料理店が、現在は「大花」の1軒だけに。吉田さんいわく「自分は、むらっ気があるから料理人に向いていない」。しかし、次々と同業者が廃業していく中、今の店があるのは、吉田さんがずっと包丁を握っていたのが大きい。「うちは父親が県の職員で、母親が店を仕切っていたね。板前さんの扱いには苦労していました。だから、ほくに料理人になってもらいたかったんでしょう。その母親が大学だけは出ておけって言うから大学にいった。人間関係を築く本当にいい時期だったと思います」。

その成果の一つが「清水桜門会」。毎月の幹事会には12、3人が集まり、年1回の総会には50人以上が集まる盛会ぶり。「全国でも珍しいでしょ。県支部の総会への動員力も清水が一番です」。

「ずっと続けてほしい」という声が多く聞かれるのも、地元の人々に育まれた老舗ならではの、そんな雰囲気を求めて、ぶらり清水を訪ねるのも一興だ。



●割烹大花／酒飯よし田

【メニュー】 ●割烹大花 会席料理(4000円〜)、部屋料無料、サービス料10%
●酒飯よし田 焼鳥400円〜 ジャンボ天丼1300円 甘鯛1500円〜 刺身盛り合わせ2000円〜 など
【営業時間】 ●割烹大花 17:00〜21:00 (昼は予約のみ)
●酒飯よし田 17:00〜21:00
【定休日】 ●割烹大花 年中無休(要予約) ●酒飯よし田 日祭日
【交通】 JR清水駅より徒歩7分
【住所】 静岡県静岡市清水区江尻東3-10-13
●割烹大花 TEL 054-367-0087
●酒飯よし田 TEL 054-366-5330

◎一口メモ

オススメは、徳川家康が好んで食べたという干興津。隣の興津で捕れる甘鯛で、市場に出回ることが少ない高級魚。甘鯛は蒸してよし、焼いてよしだが、興津では2枚におろし、軽く塩をして日干しにする。肉厚で、うろこまでこんがり焼かれ、食感も楽しめる。

〈読者への特典〉

「桜縁を見た」と言うと1人につきビール(中ビン)1本サービス

OB・OGが経営している

お宿紹介

兵庫県／ホテル山長

山本 明さん
(昭和28年法学部法律学科卒業)

平成の城下町によみがえった播州赤穂 赤穂義士の心を伝える和風の都市型ホテル

赤穂の活性化と歩調を合わせて

JR播州赤穂駅から南へ徒歩7分。赤穂城大手門手前に、手塗り漆喰の白壁といぶし瓦の屋根を特徴とする「ホテル山長」はある。山長は赤穂に代々続く老舗の旅館だが、山本さんが継ぐにあたり、目指したのは「静かにくつろげる安心料金の都市型ホテル」。赤穂市が進める忠臣蔵のふるさとにふさわしい「平成の城下町」づくりに協力し、参勤交代筋のお城通りの拠点として、市の景観条例に沿って全面新築した。

まちづくりの工事は2年ほど前に完了し、緑の松並木と漆喰壁の町並みは、全国街路コンクールで優秀賞に輝いた。

山長は、市のスポーツ施設を利用する青少年や家族連れ、ビジネスマンの利用も多いため、料金を抑えつつも、心を込めたもてなしは忘れない。「もうけばかり考えてはダメです。そんなことでは、お客さまはくつろげません」と山本さん。



●プロフィール
山本 明

(やまもと・あきら) 昭和7年兵庫県生まれ。株式会社ホテル山長代表取締役。在学中「日本大学新聞」で論説を担当、卒業後、毎日新聞社入社。理不尽なことを絶対に許さない姿勢は「毎日の山本」として名をはせた。定年後、神戸地裁の民事調停委員、司法委員を務める一方、淡路開発事業団創設に参加、淡路のリゾート開発に従事した経験をもつ。

心地良くとろげるからリピーターが生まれる

宿泊客への心遣いは、ホテルの隅々まで行き届いている。洋室には、窓際に仕事や勉強に便利に広い机が設置され、インターネット回線の入った部屋もある。和室は欄間付き二間14畳の広間とミニキッチン付き8畳の部屋もあり、滞在目的に合わせて選べる。貸切家族風呂のほか、庭園展望浴場では温泉気分も味わえる。

自慢の朝食は、味・栄養ともに優れた5種類の副菜付き。夕食は瀬戸内の新鮮な幸を中心とした特別料理も。このような心遣いに一度宿泊したお客さまは、赤穂に来たらまた山長で滞在したいと思う。

経営は夫人任せと笑いながら、「地域おこし」「ふるさと運動」の最前線にも立つ山本さんは熱く語る。「礼節が薄れ、異常事件が続く今だからこそ、赤穂義士の背景にある儒教的精神を再認識し、『武道とスポーツのまち宣言』を通じて『心優しい国民性を取り戻す全国運動』を赤穂から発信しようと思っています」。



国史跡・赤穂城

●ホテル山長 (JTB協定ホテル)

【施設】 客室・洋室(バス・トイレ付き)11室、和室5室/浴場・庭園展望浴場、貸切家族風呂/ラウンジ兼レストラン/駐車場完備
【交通】 車:山陽自動車道赤穂ICから8分
電車:JR赤穂線 播州赤穂駅下車 徒歩7分
【住所】 兵庫県赤穂市加里屋お城通り1729-5
TEL 0791-42-2354 FAX 0791-43-3876
【URL】 <http://www.h2.dion.ne.jp/~yamachou/>

◎一口メモ

国史跡赤穂城は、赤穂浅野氏初代の長直が慶安元(1648)年から13年を費やして築いた海岸平城。現在は、三の丸大手の櫓と大手門、本丸・二の丸の大名庭園が復原され、名勝になっており、大石宅跡長屋門、赤穂義士を祭った大石神社、歴史博物館などを擁する城跡公園となっている。

〈読者への特典〉

本誌読者には宿泊料割引サービス



学生が先輩にインタビューする企画です!



先輩にインタビュー

安全確認からワインの知識まで、学ぶことはまだまだたくさん!
入社した後が本当の勉強。お客さまの笑顔が一番のご褒美です



●株式会社日本航空インターナショナル 客室乗務員

後藤 あすかさん

(平成17年芸術学部演劇学科卒業)

(ことう・あすか) 昭和57年神奈川県生まれ。ミュージカルが好きで舞台にかかわる仕事を目指し、演劇学科照明コースに入学。しかし、アルバイトで接客業の楽しさを体験したことをきっかけに客室乗務員の道へ。2年間の国内線乗務を経て、現在は国際線に乗務し、主にエコノミークラスを担当。行き先はバンクーバー、ミラノ、アムステルダム、杭州など。実は時差に弱く、機内の乾燥も苦手とか。

客室乗務員。空の安全を守るスタッフとしてのスキルを要求される一方、一流の接客サービスを提供する華やかな仕事ぶり。女性あこがれの職業の一つ。応募者が殺到する狭き門をくぐり抜け、夢を形にした先輩の職場を、やはり客室乗務員を目指している国際関係学部の古橋由梨さんが訪ねた。

自分ができること、したいことをアピール
入社後に学ぶことは、もっとも多い

—客室乗務員とはまったく接点のない学部いらしたんですよね。びっくりです。いつごろから客室乗務員を目指したんですか?

それが、けっこうギリギリ! 学生時代に接客のアルバイトをしたら、お客さまの笑顔を見るのが楽しくて、漠然と接客業に就くことを考え始めたのが2年生の終わりごろ。ホテルや販売も考えたのですが、飛行機が好きだったので(笑)、じゃあ一番好きなJALを受けよう!と。そう決めたのが3年生の後半で、ちょうど今の古橋さんくらいの時期ですね。

—わたしも客室乗務員にあこがれているんですが、後藤さんは就職活動でどんな準備をされたんですか?

特別に何をやったということもないのですが……。客室乗務員になったら何をしたいかをまず考えて、それが「できる」という根拠を会社に示すための努力をしました。資格を取るのも、有効な方法の一つだったと思います。たとえば敬語などのマナーは、母や友人を相手に練習しましたが、「秘書検定」を取っていると心強いんです。一般常識やマナーを身に付けていることを、初対面の相手にも証明できますから。

英語力は「TOEIC 600点程度の英語力を有すること」という採用基準がありますが、「ギリギリでもいい」ではなく、一次、二次と入社試験が進む中でも受け続けてスコアを更新し、「またスコアが上がりました」と会社に提出しました。わたしは、学生時代に外国語を学ぶ機会が少なく、英語は苦勞しました。帰国子女の方と一緒に集団面接を受けたりすると、すごいプレッシャーで(笑)。今もまだまだ、社内の研修などでブラッシュアップを続けているところです。

—入社後も社内研修で勉強されるんですね

韓国語、中国語、手話などの教育プログラムもあるんです。出発する直前やお休みの日を利用して、自主的に参加するものです。ほかにもセミナーでワインの勉強をしたり……。

—ワインですか?

ソムリエの資格をもつ先輩もいますよ。ビジネスクラスのワインサービスは種類も多く、「初めてビジネスを利用するので、ワインが楽しみ」というお客さまがいらっしゃるほど。ところが、わたしはお酒が飲めないで、ワインのことを尋ねられても、暗記して説明するのが精いっぱいなんです。もっと上手にワインの味を表現できるよう勉強して、お客さまにワインを楽しんでいただければと思っています。



ギャレーで作業中の後藤さん。狭い機内でスピーディーに作業を行い、搭乗したお客さまにいつでも最高のサービスを提供できるように、日々訓練を重ねているという。わたしたちが、空の上で快適な時間を過ごせるのも、客室乗務員のこのような努力のためだ

安全なフライトのため力を尽くす、スタッフの一人
お客さまの笑顔を励みに、日々努力しています

—飛行機に乗る側からは、いつも笑顔で華やかなところばかり見えるんですが、中には対応に困るお客さまもいらっしゃるのでは(笑)

安全面で問題のある行動には、やはり毅然とした対応が求められます。お客さまに快適なサービスを提供すること以上に、お客さまの安全を守ることが大切ですから。

安全意識の大切さは強く感じます。わたしたちはお客さまが搭乗する前に、たくさんの項目について機内の安全確認をするのですが、最初のころはなかなかスムーズにいかないんです。研修ではうまくできても、実際に搭乗しての訓練で先輩にそばについてもらい確認してみると、慌しいので一つ、二つと抜けが出て、先輩にフォローしていただいたり。お客さまから見えないところで、こんなにたくさんの安全確認作業をしているとは、わたしも実際に搭乗するまでは想像していませんでした。今は、うまくできますから安心して下さいね(笑)。

その上、飛行機を飛ばすために、想像以上にたくさんの方が関わっているのは、大きな驚きでした。整備の人、チェックインの人、予約、広報……多くの方の力で飛んでいるん

だなあ。頭では分かっていましたが、入社してから本当に実感しました。

—お休みはとれるんですか? 体調管理も難しそうですが確かに国際線は不規則な生活になりがちなので、気を付けないといけません。勤務日程は事前に分かるので、仕事とお休みのメリハリを付けて、きちんと休むようにしています。

睡眠は、便に合わせてパターンを決めて調整します。ヨーロッパへ向かう便は、現地着が夕方なので、そのまま夜眠ってしまえば大丈夫。バンクーバーなどは午前中の到着になりますから、眠くても我慢して夜まで寝ないようにしないと。わたしは時差に弱くて、これがけっこうつらいんですよ(笑)。あとは、のどが弱いので必ずマスクをして寝ています。

乗務中の休憩時間は、忙しくて取れないこともありますが、国際線なら大抵2時間弱の仮眠時間があります。疲れてるときは、あっという間にぐっすり(笑)。目覚ましの音がお客さまに聞こえないように、音の出ないパイプレーター式の目覚ましを握りしめて寝てます。



インタビューを終えた2人の記念写真。JAL社屋の屋上からは広い成田空港(新東京国際空港)が一望でき、出発を待つたくさん飛行機を見ることができた。古橋さんはもちろんのこと、後藤さんもここから飛行機を見るのは初めてと感動

あこがれの職業に就いた先輩に質問をする古橋さん。
先輩と後輩。初めて会ったのに、不思議と話が弾む

——結婚後も仕事は続けられますか？たとえば産休や育休はあるんでしょうか？

もちろん！休んでいる間は会社からの配布物が届きますし、戻ってきて1週間ほどの研修を受ければ復職できて、定年まで働けます。わたしのグループの先輩にも、2人のお子さんのお母さんがいます。お子さんに「わたしもお母さんと同じ仕事をしたい」って言ってもらえるそうです。



後藤さんに社内を案内してもらおうと新しい発見がたくさんあった

——うらやましい！わたしも本気で客室乗務員を目指したくなってきました。初めての乗務のときって、どんな感じだったか覚えていますか？

お客さまをお迎えるため立っているだけで、ドキドキしてしまって。離陸した瞬間は、うれしいような……うーん……もう、なんとも言えない気持ちでした。その日の乗務は羽田と大阪を往復して、その後に沖縄へ行ったんです。大阪へ向かうときは朝一番で、お仕事でスーツ姿のお客さまばかりで、次の沖縄行きは観光のお客さまばかりだったんです。わぁ、こんなに全然違う、違うのねーと、そんなことで感激していました(笑)。

——路線だけでなく時間帯によっても違うんですか。サービスの内容も、お客さまに合わせて変えなくてはならないんですよね？

入社して2カ月間、マナーや応急処置の研修を受けて、実務研修で国内線からスタートします。2年たったなら国際線のエコノミークラスの研修、3年たったならビジネスとファーストクラスの研修です。お客さまの層や雰囲気が違いますから、それぞれのお客さまに喜んでいただけるようにサービスを考えるのは楽しいですよ。

ただ、どんなにすてきなサービスも、そのまま同じことを続けていたのでは「当たり前」のサービスになってしまうと思うんです。ご利用いただくたびにお客さまに喜んでいただけるよう、常に新鮮なサービスを提供していきたいと思います。

いつも、お客さまが笑顔で降りていかれるのを見送りたい。その時間が、わたしにはいちばんうれしい時間ですから。



インタビューを終えて

聞き手 古橋 由梨 (国際関係学部国際関係学科3年)



今までずっとあこがれの職業であった客室乗務員のイメージが、今回のインタビューで大きく変わりました。客室乗務員が機内の保安要員としての役割を担っていることは知っていましたが、搭乗前の細かい安全点検が訓練でしっかりと身に付けられていること、初めての乗務では指導員が付き確実に安全点検が行えるようにすること、といった徹底した安全管理、教育体制に裏方の仕事の大切さを感じました。今回のインタビューで「客室乗務員になりたい」という気持ちがますます強くなり、今日の体験を今後の就職活動に生かしていきたいです。

まだまだ
修業中

小さな美術館にたっぷり詰まった充実感 専門外だからこそ鑑賞者の立場で書ける解説がある



財団法人青春白樺美術館 学芸員
及川 真理さん
(平成18年文学部国文学科卒業)

(おいかわ・まり) 昭和58年埼玉県生まれ。平成14年文学部国文学科入学。在学中に学芸員コースを履修し、学芸員資格を取得。18年本学卒業と同時に、財団法人青春白樺美術館に学芸員として就職。現在は、一人でも多くの人に芸術の素晴らしさ、楽しさを知ってもらえるように、専門分野の違いを乗り越えるべく日々美術の勉強をしながら仕事に取り組んでいる。



及川さんの解説文が掲載された図録など(左)。作品解説中の及川さん。「勉強中です」と謙遜するが、説明はとても分かりやすい(上)

山梨県北杜市にある青春芸術村は、美しく緑豊かな小学校跡地に、青春白樺美術館、白樺図書館、ジョルジュ・ルオー記念館(礼拝堂)、梅原龍三郎アトリエ、アトリエ・ラ・リュージュという施設が建ち並び芸術複合村。この中の青春白樺美術館が、及川さんが働く場所。

「小さなころから、美術館巡りをするのは好きでした。美しい絵を見て歩くときの気分はとても幸せ。美術館とその周囲に流れる穏やかな空気の中に身を置いていると、なんだか心地良かった。こういう所で働けたらなあって、思っていました」。

卒業してすぐこの美術館で学芸員として働き始め、この春で丸3年が過ぎようとしている。今でも思い出すのは、就職直後に彼女を出迎えてくれた、この芸術村の桜の美しさ。

「青春芸術村は、桜の名所なんです。4月にはソメイヨシノが咲き乱れて本当にきれい。たくさんの方がそれを見に来ます。ですから、桜の時期は、わたしたちにとっては一番忙しい時期なんです。入ったばかりのわたしも、お客さまの案内や展示品の解説をお手伝いさせていただくことになって……。学芸員として恥ずかしくないように、本当に一生懸命勉強し

ました。この時期に身に付いたことは、すごく多かったと思います」。

学芸員として、美術館で働く。及川さんの現在にあこがれる人も多いだろう。

「本当に幸運だったと思います。学生時代、学芸員コースを取ってはいなかったものの、わたしは国文学科で、美術は専門ではありませんでした。コースの先生にも『就職は期待しない方がいいよ』と言われました。公立の美術館で働きたいと思って、公務員試験を受験したり、せめて好きな絵にかかわる仕事がしたいと考え、美術系の仕事が多い印刷会社を受験したりしましたが、ことごとくダメ(笑)。

やっと拾っていただいたのが、吉井画廊という会社だったんです。しかも、吉井長三会長が、『せっかく学芸員の資格を持っているなら、白樺美術館で学芸員をやってみなさい』と言ってくれたんです。『でも、美術は専門外ですから』と正直に言うと、『勉強し続けてくれれば、それでいい』と。

誰にも相談せずに、二つ返事で山梨に行くことを決めました。学芸員コースの先生に報告に行ったら、『どんな縁故があ

ったんだ!?!』って(笑)。普通に採用試験を受けただけなんですけど」。

夢見た仕事をする毎日。ただし、彼女が恩師に「学芸員は、雑芸員でもあるんだよ」と言われたという仕事内容は、多岐にわたっている。朝は広大な敷地の掃除と森の手入れから始まり、開館後は来場した方への作品解説をしながら、次回の展覧会の企画、常設作品の見直し、作品の管理、売店の在庫補充、経理の仕事、広報の仕事、美術館巡りバスツアーのガイド……。

「小さな美術館だからこそ、スタッフがやらなければいけない仕事も多い。山の中だから、美術品にとっての天敵である虫の駆除もします。でも、すべてが勉強につながっています。わたし以外の2人のスタッフは、美術の専門的知識をもっている人なので、いろいろと教えてもらいながら、運営については相談し合って頑張っています」。

美術を専門にしてきた人間ではないという意識は、今も自分の中にあります。でも、だからこそ美術に詳しくない方の立場に立った解説をしたり、紹介文が書けると思います。わたしの解説や紹介文を通して、お客さまが喜び、満足してくれたらうれしいですね」。

大学時代、映画サークルの仲間たちと戦わせた青くさい芸術論、接客のアルバイト、ゼミで学んだ文学、学芸員の実習、第二外国語のフランス語。当時の思い出はすべて、「今の仕事につながっている」という及川さん。好きな仕事をしている幸福感と、毎日新しい知識を得ている充実感は、ますます強くなっているようだ。

「この美術館の目玉はルオーと白樺派。特にルオーのコレクションには本当に貴重なものが多いんです。一人でも多くの方に見ていただきたいと思います」。

企画展の場合、現在は東京の事務所が企画案を作成していますが、まずはこの企画案をわたしたちなりにアレンジして、より楽しくすてきなものに仕上げることができればいいな、と考えています。ここのような小さな美術館は、公立の大きな美術館とは違い、制約が少ない。だから、わたしのような

インタビュー中、毎日好きな美術に囲まれて仕事をすすめる幸せ、と語るときは自然と笑顔に



経歴の学芸員が考えた企画も聞いてくれるし、アイデアをすぐに反映することもできる。近い将来、テーマからわたしたちで考えた企画展をやってみたい。それが今、一番目の前にある目標です」。

青春白樺美術館

- 【所在地】 〒408-0036 山梨県北杜市長坂町中丸2072
TEL 0551-32-4865 FAX 0551-32-2444
- 【交通】 ・JR中央本線新宿駅より2時間
長坂駅下車タクシー(バス)5分または徒歩25分
・中央高速長坂インターチェンジより8分
(東京より車で約2時間)
- 【開館時間】 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 【休館日】 月曜日
(展覧会会期中は開館)
(祝日の場合はその翌日。夏期は月曜日も開館)

昭和58年に青春芸術村の施設として建設された。武者小路実篤、志賀直哉など「白樺」の同人が建設しようとして、その夢を果たせなかった“幻の美術館”を、武者小路、志賀の両氏を敬愛し、個人的にも親交のあった吉井画廊会長・吉井長三が実現したものだ。



日本大学 歯学部同窓会

日本大学歯学部は、大正5(1916)年に佐藤運雄先生によって東洋歯科医学校として設立されたことに始まり、11年日本大学に移管し日本大学専門部歯科が設置されました。歯科長に佐藤運雄先生が就任し、昭和22年には旧制の日本大学歯学部の予科が設置、27年に新制の日本大学歯学部が設置許可された90年余の長い歴史をもつ伝統ある学部です。その建学の趣旨は医学の基礎に立脚した歯科技術の向上と人格の教化で、設立当時黎明期にあった日本の歯科界において、佐藤先生は歯学を口腔にとどめず、常に全身と関連づけて学ぼうとする医歯一元論を提唱し、歯科界に一大潮流を形成し、この理念は本学部の校是として脈々と継承され、幅広い知識と視野をもった数多くの俊英が巣立ち、わが国の歯科系大学の中でも揺るぎない地位を占めるに至っています。幅広い教養と総合的な判断力の上に立って、常に最新の科学情報を基にして問題を研究する能力の高揚と、診療に際しての患者本位の歯科医療に携わることのできる能力を備えた歯科医師を養成します。また歯学部附属専門学校として、29年に日本大学歯学部附属歯科技工専門学校の設置、33年日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校を設置し、多岐にわたり歯科医学、歯科医療の向上に貢献をしています。

昨年11月14・15・16日に本学部が主幹校として大塚吉兵衛歯学部長を会頭として第21回日本歯科医学界総会がパシフィコ横浜において開催され、成功裏に終了しました。

同窓会は全国に89の支部、9,000人の卒業生を輩出し、事業としては学術委員会(地方臨床懇話会、生涯教育研修講演会、実習セミナー、学術特別講演等の開催)、保険委員会(保険講習会・保険特集号の発行、中央情報の収集と連携強化等によって会員の診療に関する内容向上を図る)、同窓会誌編集・広報委員会(同窓会誌の刊行、その刊行を通じ関連団体への同窓会事業の広報、同窓会ホームページの運用等)、福祉

(かすや・しゅうぞう) 昭和12年静岡県生まれ。昭和40年大学院歯学研究科修了。歯学博士。42年に糟谷歯科医院を東京都港区に開業。東京都歯科医師会代議員、日本歯科医師会代議員、日本歯科医師会選挙管理委員会委員長などを歴任している。



糟谷 修三会長



昨年5月24日に開かれた歯学部同窓会第4回評議員会

共済、渉外、そして将来を見据えてのIT委員会を立ち上げ、全国都道府県で活躍している同窓会員を支援しています。同窓生は日本歯科医師会をはじめ各都道府県歯科医師会、郡市区歯科医師会で活躍しており、地域医療に対しても多大なる貢献とともに、わが国の歯科界発展の一翼を担っています。

最後に、母校日本大学及び校友会のますますの発展をご祈念いたします。

(日本大学歯学部同窓会 編集広報担当常任理事 野本 明宏)

日本大学校友会 愛知県支部

日本大学は、わが国を代表する日本最大級の総合大学のため、卒業生が語る学生時代の記憶はいずれも、それぞれに分かれたキャンパスによって違います。

その背景には、本学の規模があまりにも大きく、日本大学を卒業した意識よりも学部を卒業したという意識があるからだと思います。

このことは、愛知県支部の活動でも同様です。県支部活動よりも「学部別」・「地域別」・「職域別」の支部が、活発に総会などを開催しています。県支部では、このような各支部の案内が届くたびに県支部長・代表者らが手分けして参加し、校友の活動状況を把握するようにしています。

最近行われた各支部の活動を例に挙げれば、理工系の建築系学科のOBで組織されている校門建築会の支部総会では、建築学会会長で日大OBの齋藤公男教授が「空間・構造物語」と題した講演を行い、素人の私も大変勉強になりました。

岡崎校門会は徳川家康公を輩出した風土に根づく郷土愛は、独自の固い結束があります。愛知、三重、岐阜の3県の県議会議員も結束し交流を深めています。このほかにも、愛知地区校土会、経済学部と商学部の校友会、芸術学部の校友会、歯学部と松戸歯学部の校友会、教員出身者の校友会など、学生時代と同じ学舎で学んだという心の絆を大切に、それぞれが熱心に活動を行っています。

このように、各複数の支部が活発に活動を行っていますが、統括する愛知県支部としては、苦勞も多いたるところです。

ところで、今一番の悩みは、近年、個人情報保護の法律が制定されて以来、大学から卒業生名簿が校友会県支部に送られなくなり、後輩への呼び掛けが難しくなっています。このため、どこの校友会支部も会員の激減で運営・維持に困っています。ただし、原因はこれだけに限らず、時代の変化もあると思います。若い世代が先輩校友との集いに積極的に



筒井 隆彌支部長

(つつい・たかや) 昭和20年愛知県生まれ。昭和43年法学部政治経済学科卒業。現愛知県議会議員。50年、当時史上最年少の29歳で県議会議員に初当選以来、現在まで9期続けて当選。その間、県議会副議長などを歴任。平成12年監校表章。



昨年11月19日に開かれた愛知県支部総会

参加し人間関係を深めようといった、昔からの良き伝統は消え去り、このようなことに拒否反応を示す人が多くなったこともあるでしょう。

これから先の校友会活動は大変な時代になってきていると思いますが、日本大学の都道府県の校友会を消さないように全国各地の校友には、若い卒業生がいたらぜひ校友会県支部にご紹介くださるよう、ご協力をお願いいたします。

(日本大学校友会愛知県支部長 筒井 隆彌)

2月以降の保健体育審議会所属各部の試合日程をお知らせします。
詳しくは保健体育事務局(電話03-5275-8279)までお問い合わせください。

競技部	日付	大会名	場所	
水泳部	2/21~22	日本短水路選手権大会	東京都	東京辰巳国際水泳場
テニス部	3/2~8	平成20年度関東学生新進選手権	東京都	立川ルーデンステニスクラブ
スケート部	2/20~22	エムウエーブスピードスケート競技会	長野県	長野オリンピック記念アリーナ(エムウエーブ)
	2/27~3/1	全日本選抜スピードスケート競技会	岩手県	岩手県営スケート場

北京オリンピックの結果

昨年8月に開かれた北京オリンピックには、日本大学の校友と在学生から、団長の福田富昭さん(昭和41年経済卒)を筆頭に役員15人、選手16人が参加し9人の選手が入賞しました。このうち、水泳男子400mメドレーリレーで佐藤久佳選手(文理4年)が、シンクロナイズドスイミングのデュエットで鈴木絵美子選手(平成19年経済卒)と原田早穂選手(18年文理卒)のペアが、それぞれ銅メダルを獲得しました。

競技部	選手	種目	順位	記録
陸上競技	澤野大地 (平成15年文理卒)	棒高跳び	16位	5.55m
	村上幸史 (平成14年文理卒)	槍投げ	15位	78.21m
	谷井孝行 (平成17年文理卒)	競歩 (50km)	29位	4時間1分37秒
水泳	佐藤久佳 (文理4年)	競歩 (20km)	失格	
		競泳 (400mリレー)	予選不通過	3分17秒28
	上田春佳 (経済2年)	競泳 (400mメドレーリレー)	銅	3分31秒18
		競泳 (400mリレー)	予選不通過	3分39秒25
		競泳 (400mメドレーリレー)	6位	3分59秒54
	柴田隆一 (平成18年文理卒)	競泳 (800mリレー)	7位	7分57秒56
	柴田隆一 (平成18年文理卒)	競泳 (200mバタフライ)	13位	1分56秒17
	伊藤華英 (平成19年経済卒)	競泳 (100m背泳ぎ)	8位	1分0秒18
		競泳 (200m背泳ぎ)	12位	2分9秒86
	松本尚人 (平成19年文理卒)	競泳 (800mリレー)	7位	7分10秒31
	森田智己 (平成19年経済卒)	競泳 (100m背泳ぎ)	10位	53秒95
	物延靖記 (平成20年経済卒)	競泳 (800mリレー)	7位	7分10秒31
	鈴木絵美子 (平成19年経済卒)	シンクロナイズドスイミング (チーム)	5位	95.334点
シンクロナイズドスイミング (デュエット)		銅	97.167点	
原田早穂 (平成18年文理卒)	シンクロナイズドスイミング (チーム)	5位	95.334点	
	シンクロナイズドスイミング (デュエット)	銅	97.167点	
野球	村田修一 (平成15年経済卒)		4位	
ボート	浦和重 (平成11年法卒)	LM2X (ダブルスカル)	13位	6分23秒02
卓球	福岡春菜 (平成18年法卒)	シングルス	予選不通過	
		団体	4位	
ヨット	近藤愛 (平成16年生物資源科卒)	470級スキッパー	14位	93.0点

●日本大学全国校友会大会を開催

日本大学全国校友会大会が、昨年11月21日(金)午後6時から、東京ドームホテル(東京都文京区)「天空」で、日本全国から集まった校友や本学関係者など約1,000人が参加して行われました。この大会は、校友と本学関係者が、一堂に会し「絆」を深め、大学の発展に寄与することを目的に毎年開かれていますが、今回はこれに加え、昨年9月に就任した酒井健夫総長の就任祝いと北京オリンピックで顕著な成績を残した選手の表彰も合わせて行われました。

TBSアナウンサー・柴田秀一さん(昭和56年法卒)の司会で進められた宴は、校歌斉唱の後、田村榮一大会実行委員長の辞で開会。大会会長の田中英壽校友会会長と来賓を代表して酒井健夫総長のあいさつ後、校友会から酒井総長と田中

理事長に花束と記念品が贈られました。続いて、北京オリンピックでメダルを獲得した佐藤久佳さん(競泳・文理4年)、鈴木絵美子さん(シンクロナイズドスイミング・平成19年経済卒)、原田早穂さん(同・18年文理卒)の3選手と日本選手団競泳の監督を務めた上野広治さん(昭和58年文理卒)に、校友会、桜門スポーツ部会、日本大学の3団体それぞれから記念品などが贈られました。

その後、山口泰明衆議院議員(昭和48年法卒)の発声で乾杯が行われると、大会は佳境に。応援リーダー部「ディッパーズ」の軽快な演技が繰り広げられる中、にぎやかな歓談が続きました。



田中大会会長のあいさつ



酒井総長による来賓あいさつ



校友会から酒井総長と田中理事長へ記念品と花束が贈呈された



乾杯のあいさつをする山口衆議院議員



シンクロの原田選手に校友会から記念品の贈呈



校友会からの記念品を受けたメダリストたち



●日本大学理事長に 田中英壽校友会会長



(たなか・ひでとし) 昭和21年青森県生まれ。昭和44年経済学部経済学科卒業。平成8年から本部保健体育事務局長を務め、11年日本大学理事就任。12年保健体育事務局長、13年校友会本部事務局長、校友会本部長、校友会副会長を歴任。14年日本大学常務理事。16年校友会会長代行を務め、17年に行われた校友会役員総会で校友会会長に就任。20年の役員総会で再選される。日本オリンピック委員会(JOC)常務理事、財団法人日本相撲連盟副会長、国際相撲連盟会長。

(日本大学新聞社提供)

日本大学の役員改選後初の理事会が、昨年9月10日に開催され、校友会会長の田中英壽氏が新理事長に選任されました。

田中理事長は、9月26日、日本大学会館大講堂で開かれた就任式で、大学の財政健全化と風通しのいい組織などへの課題に取り込むことを強調し、酒井総長の施策を効果的かつ的確に整備することを責務とする決意を表明しました。

さらに、解決が急がれる懸案として、①お茶の水キャンパスの土地活用、②本部所管の大学院独立研究科および事務局のスリム化、③「下板橋病院」の具体化など付属病院の建て替え、④広報の充実、⑤FD・SD活動の推進と教職協働への能力開発、⑥幼稚園から大学院までの一貫教育、⑦国際交流センター新設を含む国際化、⑧目標管理制度創設をはじめとした人事制度の再構築、⑨校友会活動の拡充とさらなる戦略の組み立て、⑩学業やスポーツに秀でた学生の育成・輩出、の10項目を挙げています。

●文化勲章受章 古橋廣之進名誉教授



(ふるはし・ひろのしん) 昭和3年静岡県生まれ。日本大学名誉教授。昭和26年法文学部政治経済学科卒業。在学中の24年に出場した全米選手権で400m、800m、1500mの自由形で驚異的な世界記録を出し、世界の注目を浴びる。卒業後、大同毛織株式会社に入社。その後、41年本学文理学部専任講師となり、42年助教授、50年教授。この間、スポーツ界の発展にも貢献し、日本水泳連盟会長、国際水泳連盟副会長、日本オリンピック委員会会長などを歴任。42年国際水泳殿堂入り。52年紫綬褒章。平成15年旭日重光章。17年名誉都民。

(日本大学新聞社提供)

日本大学名誉教授の古橋廣之進氏(昭和26年法文卒)が、スポーツの振興と発展に寄与したことで、平成20年度の文化勲章を受章しました。11月3日の文化の日には、皇居で行われた親授式に臨み、天皇陛下から橋の花弁をデザインした勲章を授かりました。12月16日には、日本大学会館大講堂で古橋夫妻を招いての「受章を祝う会」が開かれ、校友や大学関係者など約350人が集い、盛大に行われました。

古橋氏は、本学在学中の昭和24年、アメリカ・ロサンゼルスで開かれた全米選手権に参加。驚異的な世界記録を連発し、アメリカ中に「フジヤマのトビウオ」と騒がれ、敗戦に打ちひしがれていた日本人に自信を与えるとともに、「水泳ニッポン」の土台を築きました。

その後、昭和41年から文理学部で教職に就いたほか、日本オリンピック協会会長、国際水泳連盟副会長など歴任し、後進の育成とスポーツの社会的評価を高めました。

●お知らせ・掲示板

日本大学校友会スポーツ振興特別委員会の 寄付金募集について

校友の皆さまには、これまで「箱根駅伝特別委員会」の活動を通じて、新春の東京箱根間を走る選手たちを応援していただきましたことを大変感謝しております。

昨年、校友会では「箱根駅伝特別委員会」を発展的に解消し、保健体育審議会に所属する競技部全35部を対象に、応援・支援活動を目的とした新たな委員会として「スポーツ振興特別委員会」を設置いたしました。今後、皆さまには、日大スポーツ全般を物心両面から支援していただくことで、再び「スポーツの日大」と全国に謳われるようにしていきたいと思っております。

つきましては、スポーツ振興特別委員会では1口2,000円で寄付金を募集しております。この募金は年間を通して行っておりますので、「スポーツの日大」復活のために、皆さまからのご支援を願っております。

郵便振替口座 (口座名) 日本大学校友会スポーツ振興特別委員会
00190-7-585685

※専用振替用紙は下記にご連絡いただければ郵送いたします。

問い合わせ先 日本大学校友会本部事務局校友課
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
TEL03-5275-8044 FAX03-5275-8330

スポーツ振興特別委員会のホームページ (<http://www.nichidai-sports.jp/>)
では、随時日大スポーツの結果などをお知らせしています。

○インフォメーション

◎本誌への情報提供、ご意見、お問い合わせは…
この会報は1人でも多くの校友の皆さんを紹介し、校友の皆さん同士のコミュニケーション(縁)を深めていただきたいと思います。お店やお宿を営んでいる校友に限らず、ユニークな先輩や後輩がいるとか、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦を問いませんので、事務局までお知らせください。

◎住所・勤務先が変わったら…
住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局までお知らせください。
電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。

◎会員証を紛失されたら…
会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。再発行させていただきます。

◎新規会員を紹介したい…
新規会員をご紹介くださる方は、事務局までご連絡ください。資料を送付させていただきます。

- 1 封筒、ハガキで
〒102-8275
東京都千代田区九段南4-8-24
日本大学校友会本部事務局校友課「桜縁」係
- 2 電話、ファクシミリで
TEL 03(5275)9300
FAX 03(5275)8330
- 3 電子メールで
E-mail : koyu@nihon-u.ac.jp

編集後記 広報委員会委員長・新井 謙寿

新しい広報委員会による初めての発行となった今号では、一つの企画に2~3ページを割り当て、読み物として充実させました。また、写真も点数を増やしたり、大きくしたりと視覚的にも楽しめるようにしました。いかがでしたでしょうか? また、新企画として総長と理事長の新春対談を行いました。お二方の魅力的な一面がうかがえたのではないのでしょうか。

これからも、読者の方々に楽しんで読んでいただけるよう、魅力ある紙面づくりに努めていきますので、よろしく願いたします。

桜縁 No.14/2009.1 発行 編集発行 日本大学校友会
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
TEL.03(5275)9300 FAX.03(5275)8330

広報委員会
委員長:新井 謙寿 副委員長:綾部 東洋子
委員:石 光 井上 閑陽雄 内田 章 小橋 恵津 中村 克夫
萩原 正芳 茂木 完仁 石澤 恒男 鈴木 彰一 中島 正博
野澤 達也 滝沢 哲雄 堀 敏一

OPEN



日本大学のすべてが分かる
情報発信基地

NUIP

Nihon University Information Plaza

日本大学 インフォメーションプラザ

各学部・全学科の教育・研究への取り組み、最新の入試情報や就職に関するデータ、サークル活動など学生生活を紹介して日本大学に関するあらゆる情報を受験生・校友をはじめ一般の方々にも紹介する施設です。



落ち着いて情報収集ができるホール内

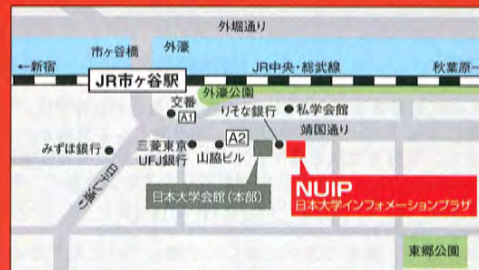


タッチパネルコーナー



ラウンジ

所在地・東京都千代田区九段南 4-8-28 TEL.03-5275-8000
月曜日～金曜日 9:00～19:00 / 土曜日・日曜日・祝日 9:00～16:00
(12月29日～1月7日は休み)
JR・地下鉄「市ヶ谷」駅下車 徒歩2分
※地下鉄でお越しになる場合は、A2出口が最寄りの出口となります(右図参照)



■日本大学本部広報部入試課
東京都千代田区九段南 4-8-24 TEL.03-5275-8001